

東京築地居留地調

218-5	子
函	架
冊	類

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-1
	(単) 1463

1.464

目次



江戸に居留スル取極

慶應三年十一月朔

國人居留スル規則附録

明治三年四月四日

東京外國人居留地面競賣ノ條

東京外國人居留地券按

東京外國人居留地貸借沿革表

全圖

地租淹滞

白團領事ムル口ニ地租淹滞セシテ明治七年十月廿七日

過料金トモ徴收セシム

外國人地料淹滞ノ節彼我裁判決了スルヲ明治七年十一月廿八日

テハ滞租ニ付過料金を徴収セシム

米国人ジエムベツチヨルトル及ヒフリジ全九年三月五日

ユトアルマン滞租ニ付該國領事ノ告訴セ

シム

白岡領事エルストロース滞租ニ付該國政 全年四月二十日

府ノ告訴セシム

米国人バチマルトル滞租ニ付該國領事不 全年三月十三日

當ノ判決マシラ以テ尚領事廳ニ再訴ス

英國人プロツクリー滞租ニ付該國領事ノ 全年九月廿一日

告訴滞租金府廳ノ領收ス

米国人バチヤルドルノ係ル滞租ノ告訴ハ 全年十月四日

地料完納セシラ以テ其訴訟ヲ解ク

蘭國人デヨング滞租ニ付該國領事ノ 全十一年六月四日

告訴マシム

蘭國人デヨシクノ係ル滞租金該國領 全年七月八日

事ノ出訴ノ上徴收ス

訴訟入費

英米國人ノ係ル滞租訴訟入費ハ府廳定 明治十年十月十六日

額常費ヲ以テ支辨セシム

居留地境界建石費

居留地境界建石修繕費ハ定額常費居留 明治十年五月十三日

地諸費ヨリ支辨セシム

居留地區入費

居留地區入費ハ貸地料ノ内ヨリ 仕拂 明治八年一月廿三日
ハシム

居留地區入費全負府廳ノ下渡 全年三月廿二日

居留地區入費ハ定額常費居留地諸費 全九年正月廿七日
ノ中ヨリ支辨セシム

居留地道路

居留地倉庫敷跡地道路ノ編入セシム 明治八年九月廿五日

居留地三十一番地ノ先道路幅員更正ス 全十年七月三日
ルニ付該地居住ノ獨田人ノ償金ヲ與ヘ
返地セシム

居留地々料徴收年度更正

居留地々料納期改正マテ 従前ノ通徴 明治八年十一月廿日
收セシム 納期更正ノ夕ノ滞租ノ利子ハ徴
收スヘカウナル旨ヲ達ス

居留地々料納期改正セニ 一々各團公使 全年十一月十九日
ノ通暢ス

居留地々料納期改正マテ 舊ニ依リ徴收 全九年正月十日
セシム

貸地料減額

居留地々稅壹々年壹坪三拾七錢五厘ヲ 全十年九月十四日
貳拾八錢ニ減少ス

競債金上納

十番十一番三十五番三十六番地競貸金 明治八年一月廿六日
上納ス

二十番二十八番四十二番地競貸金上納ス 全九年九月二日

居留地貸渡讓渡辺遷分割

一番地ヲ米人ゼーエムバケマルトへ貸渡 明治三年六月三日

米國人ジョニフホソグトンスレーへ讓渡 全十一年一月

二番地ヲ米國人ゼーエムハチマルトへ貸 全三年六月五日

米國人レヨンブホツグトンスレーへ讓渡 全十一年一月

三番地ヲ佛國人レソランドンウキへ貸渡 全三年六月三日

四番地ヲ獨國人エルネストゼイドへ貸渡 全

英國人ドブリエドンスルへ讓渡 全四年六月十九日

蘭國人エトワルトスネルへ讓渡 全六年七月一日

英國人ジョーヅサクテシニアイトエビ 全

一へ讓渡

五番地ヲ瑞國人レイベルへ貸渡 全三年六月三日

瑞國人ジョーブレシロルトへ讓渡ス 全五年四月十日

英國人ジョニククラウイソシマクト 全十年二月

ナルトレヨシエムミレーヤムケヤースイ

ゼーへ讓渡

六番地ヲ米國人テリタムワンへ貸渡 全三年六月三日

七番地ヲ英國政府へ貸渡 全

米國人バルンへ讓渡 全八年十二月

八番地ヲ白團領事エルスローへ貸渡 全三年六月三日

九番地ヲ佛國人フルカドフィーセへ貸渡 全

米国人エトワルトハウスへ譲渡ス 全十一年二月

十番地ヲ米国人ニリヤスソバルへ譲渡ス 全七年七月一日

米国人ドラスクウシノールカルへ譲渡 全十一年二月

米国人エムエースペリリーへ譲渡 全十三年八月

十一番地ヲ米国人シエリヤスバルへ譲渡 全七年七月一日

十二番地ヲ米国人セーエムバヤルトへ譲渡 全十三年二月一日

甲乙二号ニ分割ス

甲ヲ獨團人ケラジマルチンセラ清團人 全

陳瑞璋へ譲渡

十三番地ヲ米国人オリブホワイラークへ 全十三年二月一日

賃渡ス

十四番地ヲ米国人エイムハイスへ 賃渡 全

十五番地ヲ米国人エムシーハリスへ 賃渡 全

十六番地ヲ米国人ウイリラムインスリー 全

へ 賃渡

十七番地ヲ獨團人バトリーへ 賃渡 全三年六月三日

後甲乙二号トス

甲ヲ英國人ブリシットフロククリーへ 賃渡 全七年九月

米国人ヤーエルアメルマンウイリヤムイン 全十二年二月

グリー外一へ 譲渡ス

乙ヲ米国人エフジョーフルベツキ外一へ 賃渡 全七年九月

十八番地ヲ英國人ライケンへ 賃渡 全三年六月三日

米国人ジョータブリーユアンホーへ 賃渡 全八年七月一日

へ 賃渡

英國人ヘンリーフラスエスシマクマク 全十二年十二月

ラシへ 譲渡

十九番地 佛國人エルネストメイ、ト、讓渡 全三年六月三日
佛國人ハアホルルスタント、讓渡 全五年十月八日

後甲乙ニ号トス

甲ヲ米國人マールエルマノルマン、讓渡 全十年十月廿日

乙ヲ英人ヘンソーフオルス外三人、讓渡 全十年三月廿日

二十番地ヲ英國人ヘンソーフオルス外三人、讓渡 全九年八月廿日

二十一番地 二十二番地ヲ米國人ローエム 全三年六月三日
バチヤルト、讓渡

二十一番地ヲ米國人シヨンブホツグトン 全十一年一月
ワレ、讓渡

二十二番地ヲ米國人シヨンツホツグト 全
ンツレ、讓渡

二十三番地ヲ佛國人ベイヤ、讓渡 全五年六月三日

二十六番地ヲ米國人シーエムウイ、リヤ 全十三年二月一日
ム、讓渡

二十七番地ヲ英國人マードゲ、スコツト、讓渡 全

二十八番地ヲ獨國人ダブリー、コトニツ、讓渡 全九年八月一日

米國人エー、ラクリング、讓渡 全十三年四月

三十番地ヲ佛國公使館出張所、讓渡 全五年六月三日

返還 全八年四月七日

米國人エイチ、エイチ、リリス、讓渡 全十三年二月十日

三十一番地 三十二番地ヲ獨國、ヘリン、讓渡 全三年六月三日

返還 全十年三月一日

三十三番地ヲ佛國人アレ、エスルト、讓渡 全四年九月十九日

後甲乙ニ号トス

甲ヲ佛國人クラトリーへ譲渡

全五年四月

乙ヲ右全人へ譲渡

全六年六月

三十五番地三十六番地ヲ佛國人エムア
ボストリツクへ譲渡

全七年七月一日

三十七番地三十八番地ヲ米國人シーエム
ウイリヤマへ譲渡

全十三年二月一日

四十一番地ヲ獨國人ハアールニスへ譲渡

全五年六月三日

獨國人エムエムヘーヤ社へ譲渡

全十三年五月

四十二番地ヲ米國人デーラムソングスヲ
エウインスリへ譲渡

全九年八月一日

四拾六番地ヲ英國人エーゼーヤへ譲渡

全三年六月三日

佛國人ハアールニスへ譲渡

全五年三月

佛國人サンドマキルドへ譲渡

全八年一月

四拾八番地ヲ蘭國人デヨングへ譲渡

全三年六月三日

英國人ウナリムエウルライドへ譲渡

全十一年七月一日

甲四拾九番地ヲ英國人シマンハルトリー
へ譲渡

全四年九月十九日

英國人エイテハウスへ譲渡

全十二年十一月

乙四拾九番地ヲ蘭國人デヨングへ譲渡

全四年九月十九日

英國人ウイルシムホルライトへ譲渡

全十一年七月一日

五十一番五十二番地ヲ瑞國人シーベルへ譲渡

全四年九月十九日

瑞國人シーブルンワルトへ譲渡

全五年四月七日

英國人シヨンパイパルへ譲渡

全十年十一月

東京築地外國人居留地

總則

外國人江戸に居留する取極
第一條

慶應三年丁卯十一月朔日
西曆一千八百六十七年十二月廿六日

別紙繪圖面に赤色の彩色せし区内を條約濟各團の
民商賣の爲家屋を借り且つ其処に住居する事を得
し然りと雖も右区内に家屋を所持する日本人若し外
國人に借る事と不好ときハ其意に及し無理に貸さ
むる事なく且又日本政府江戸に於ては各條約濟の團
人開港場の於て地面を借り家屋を建てる條約の旨趣
と全様ふる便宜と與人事を欲せし古繪圖中藍色
の彩色せし場所と家屋造營を爲す貸與する用意を為
すべし

第二條

方家屋造替の爲に存する地所追々塞り猶他の地所入
角の節に至れば別紙繪番面より記せし場所と日
本政府より用意し周圍は幅六間四尺(四十フット)以上
の道路と敷設くべし然れ共其後猶地面入用の節に具
都度赤色に彩色せし區内に追々廣くべし

第三條

別紙繪番面中藍色に彩色せし場所を日本政府より來
り十二月七日迄に在來の家屋と取除け其周圍は幅六
間四尺(四十フット)以上の道を開き適宜の下水と設け
道敷と除き其區内の地所を大阪兵庫外國人居留地取
極り第六第七第八九條の趣に隨ひ外國人へ貸與ふべ
し

第四條

別紙繪番面に赤色に彩色せし區内を通過する地割り
來り十二月七日迄に日本政府より掃除し其後絶へば
丁字に掃除せしむべし尤右地割掃除の諸入費を日本
政府より出せしむ

第五條

別紙繪番面より記せし區内に於て普請を取掛り居る
外國人旅籠屋を日本政府より來り二月七日まで落
成せしむべし尤右旅籠屋を日本人の取扱はるべし

第六條

日本政府別紙繪番面より記せし便宜の陸揚場と取
設け各個人所持の荷物陸揚場或は船積の爲適宜の素舎
(雨露を凌ぐ爲に小屋にて暫時荷物と置く所)と取建へ

し且江戸を開港場と非されハ外國商船等碇泊をハカ
ラハ外國人所持の荷物も則ち条約附録交易規則ニ從
ハ横濱小テ改メテ請け全所或ハ他の開港場ニ於テ輸
入税と納リタル上江戸へ陸揚をハし且江戸に於テ輸
出税と取まる都合ニ至ラ廷當分の内外國人江戸より
輸出をトる物産を横濱運上所より改メテ請け輸出税と納
メタル上ニ非されハ内港ニ於テ何れハ外國船へ積
載をハカラレ

第七條

本書附録の規則并条約附録の交易規則ニ隨ハ外國人
所持の荷物運送船引船或ハ兼合船等帆前蒸氣の差別
なく江戸と横濱の間ニ往復をハシ

第八條

江戸へ出る外國人官負ヨシテ官服と着用志多ク士官
の外ハ神奈川奉行一覽附録の鑑札と横濱在留其團の
コンシユルナリ請取之と所持をハし而シテ陸地通行
の者ハ六郷渡場ヨリ之を見セ船路通行の者ハ江戸屋
場ヨリ到着の上之ヲ日本役人ヨリ示をハシ尤官負ハ外鑑
札なく江戸へ出る者ハ其團の趣意条約面通
ハ引渡をハし右ハ外國人ヨリ江戸開市の趣意条約面通
リニ遵奉セシメハカ為ナリ

第九條

荷物運送船引船兼合船等都テ外國船江戸へ着る時
ハ軍艦附属船を除キ白き標木と立たる兩屋場の間ヨ
リ入津をハシ尤各船右屋場の所へ着る時日本役人
之ヨリ乗組ハ其所ヨリ止リ相和ムハ其時各船ハ船司

る右衆組の日本役人望む事あらう衆組人の目録と渡
し外國人も各其鑑札と見せしき也

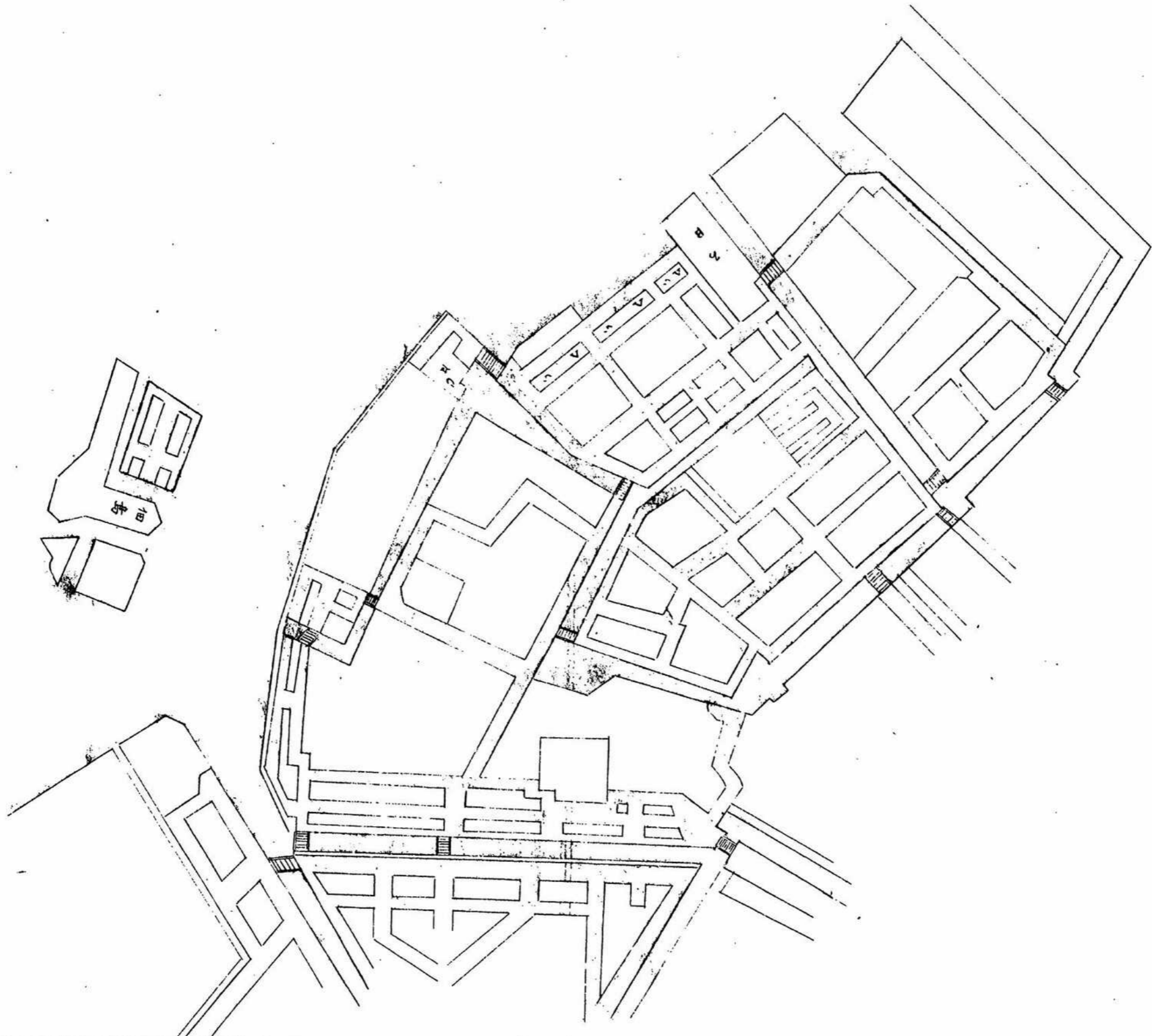
第十條

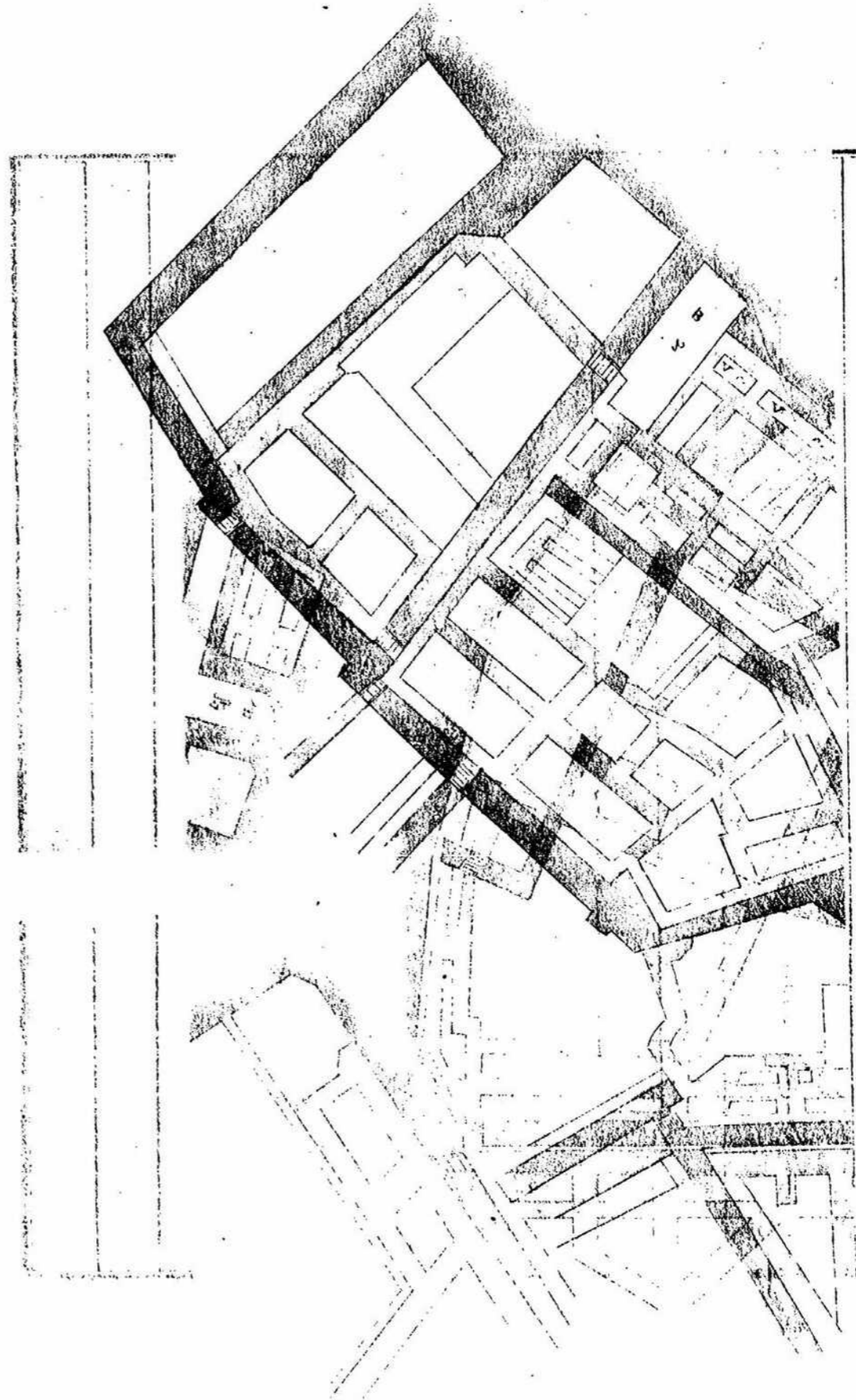
日本政府も右兩臺場の入口より外國人居留地まで船
路に標杭或は浮標と設くべし

第十一條

江戸在留外國人も左に記せし境界の内を遊歩勝手多
うし即新利根川(或は江戸川といふ)口より北の方金
町の關所まで夫より西の方水戸街道に沿ひ千住宿大
橋迄夫より隅田川以南川上へ登り古谷上の郷迄夫よ
り小室村高倉村小谷田村萩原村宮寺村石島村三木村
田中村の諸村落に沿ふて日野村迄線と引き日野の
渡場より玉川口迄と限りし

外國人も江戸市街各所を於し水陸往來をも事日本人全
様差障あからし





東京に外國人居留を依規則附録

明治三年庚午四月四日
千八百七十年第五月四日

第一條

別紙繪圖面より朱線と以示せし場所内を各約濟外國人日本人より家屋を借り商賣を營む為め住居を事を得べき旨と約諾せり且又日本人右区内にて家屋を外國人に貸渡を事五ヶ年と過ぐべからず尤双方にて示談の上期限を延ぶるとも何のべし右区内にて日本人より家屋を借受り外國人を道路下水溝或は掘割修復の爲め日本人より納むべき町入用と全様を納むべし

第二條

千八百六十七年第十一月二十六日取結びし東京外國人居留地規則第一ヶ條及第二ヶ條に基き別紙繪圖面青線内の地所を日本政府より外國人に貸渡をべき

旨と約諾セリ右場所は其地と接近セリ日本人の地所
も巾一百尺の道と以テ北の方と境界とヘシ且つ(ろろ)
と印セリ二區及ハ(ははは)と印セリ三區の地所と外國
人との債渡セシ上る速カ(じ)と号セリ正面の地所は
る日本人家と取拂ヘシ右青線内の地面悉く外國人
ありて所有セリ時を居留地と別紙繪圖面(にに)と印
セリ堀割と廣ハシ

第三條

別紙繪圖面(ろ)と印セシ正面二區の地所并(は)と印セ
る後手三區の地所残ラテ來リ第六月二日と競賣し出
スヘシ右五區の地所競賣元代一坪に付金壹兩二分一ケ
年の地租一坪に付金一分貳釐多クヘシ(じ)と印セシ一
區内の地所并(にに)と印セリ堀割を以テ境界とする地所

内を競賣元代一坪に付金貳兩一ケ年の地租一坪に付金
二分二釐多クヘシ

第四條

競賣を此規則に添ふる競賣ノ条書に隨ふヘシ居留地
内ありて其他の地所と外國人より要する旨と各團コニ
シユルハ日本政府より申立つる歟又ハ政府より競賣
セんと欲する時を都て此後の地所競賣し出スヘシ旨
を一月以前より日本政府より布告スヘシ

第五條

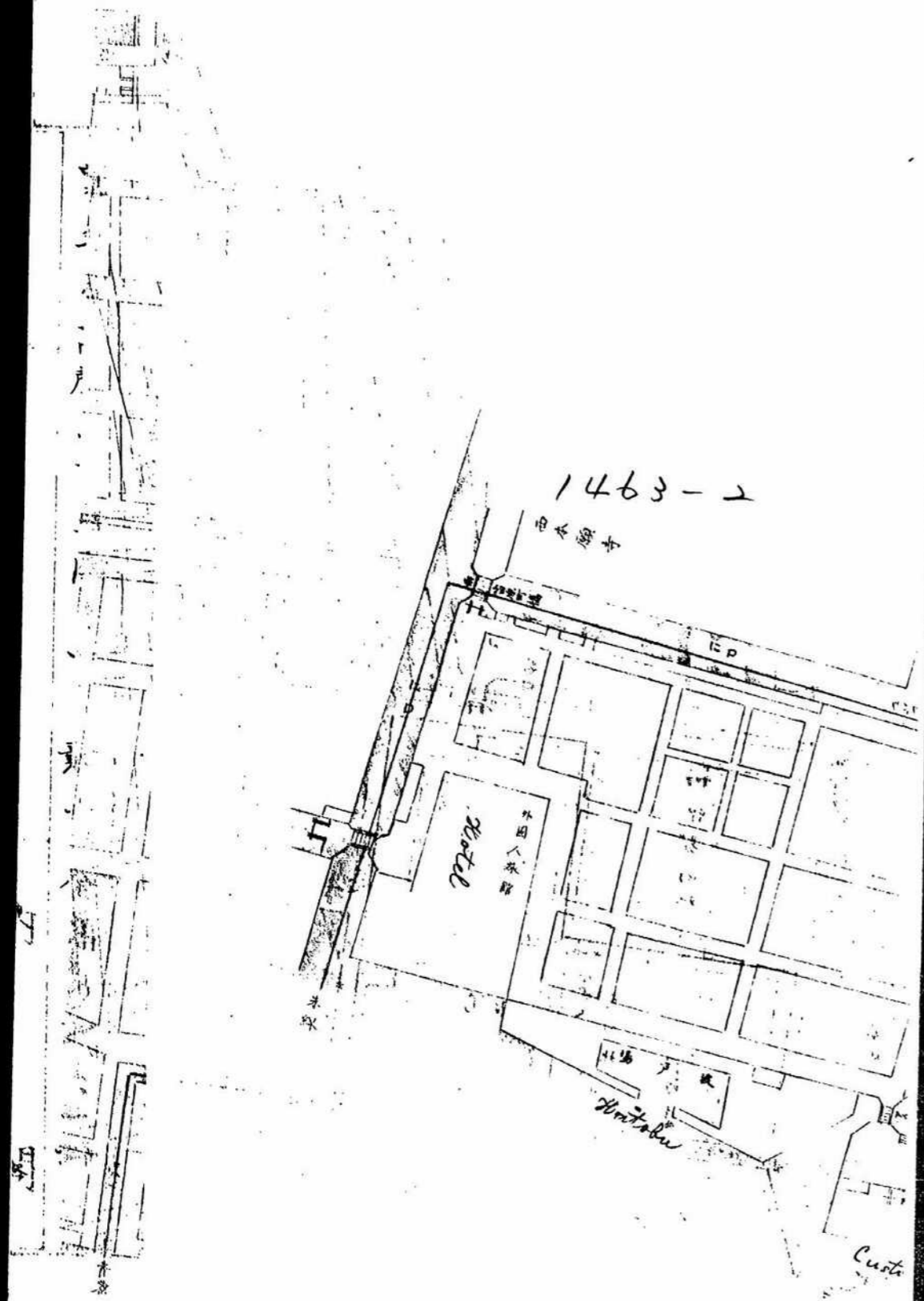
外國人より前文の地租と拂ふに付日本政府より海又
ち堀割の石垣及ハ居留地の道路と陸田に築造し且是
を修理する事又居留地に下水溝と附け道路に夜燈と
照らす事と約諾セリ

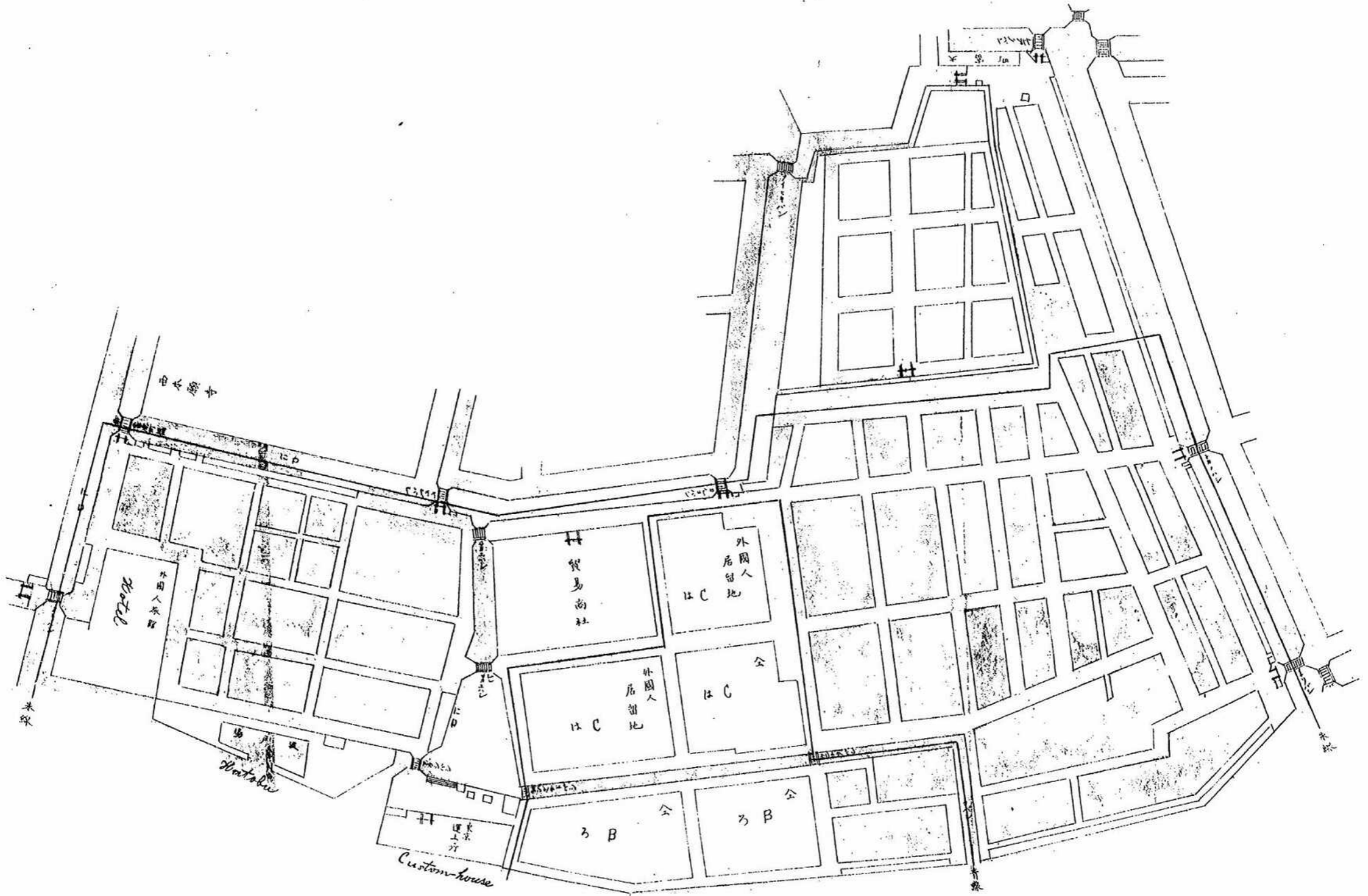
第六條

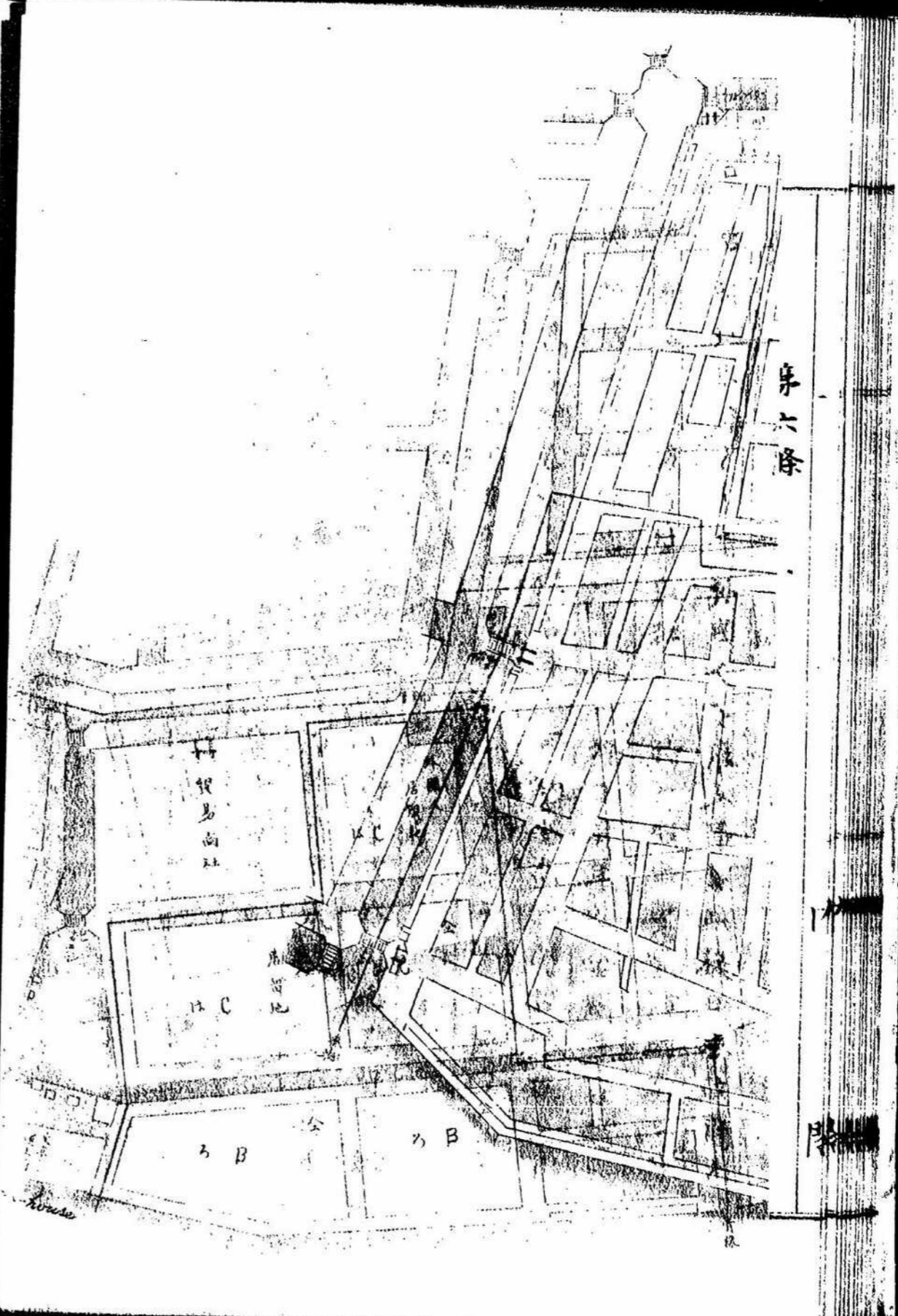
居留地取締として外國人之雇入事と此後日本政府と
 外國公使双方より取極むる時ハ右出賣と補ふ為め外
 國地借入より貸渡せし地一坪より年々金貳百圓越へ
 る高と納むべし但右年々可納金高及ハ右拂方の日
 限り具地の日本長官及ハコンニエルりて取極むべし

第七條

方今兵庫大阪にて旅行とるを考へて外國人居留取締
 の規則と此後設る人と欲する時ハ日本政府より具事
 へ付外國公使等より申する意と勘考をへし







第六條

東京外國人居留地面競賣ヶ条

第一條

競賣すべき地所残りと賣れ終つて日本政府より望
 欠の順序の地面を一區宛の區分をいし
 後日の証として其地の日本領所共東京横濱各團コ
 ンニル役所より其地日本長官ノ調印せし繪面一枚宛と
 差置くべし

第二條

競直段高直の方へ必と賣渡をいし若し競高二入又々
 二人以上の入々の間ニ異論起る事ゆらち改りて更
 競賣より出をいし

第三條

買手が高聲して直附をいし競上げ金高の義を一坪

付金分の五分より少くからしむるに競賣人を自己の
為或は他人の爲に直付けしる事はふからば落槌
の節競賣人を買手の姓名と高声で唱へ早速帳面に留
むへし追て地券を渡す時右買手の外次志て他の名前
も記さへからしむ

第四條

最も高價と入れたる者を落槌の節未だ次の地所と競
賣に出さしむる内追て競落代金可相拂証として内金百
圓其場ふて相納むへし是を進る地券相渡す時差引
勘定とへし若し右内金早速不相納者破談し相極め
次の一區と競賣し出さしむる内改めて更よ之と競賣し
出とへし

第五條

地券を別紙の通り相認むへし右日附より千八百七十年
第七月一日と記入全日相渡す様用意可致右地券の書
入る、名面の當へ可渡す勿論、候へ共請取に罷
出候者代へたる委任状或は其地所を買取又は地券と
請取らへき權と授けし旨の確証と持参するに於ては
其者へ渡す事不若右証書或は其筋少て認めある
寫と日本地方長官の方より留置し、若し全年七月一
日迄に買請の手續を令了さざり者破談し相極め次
の競賣の節改りて別々にせらる既し細り内金十日
本政府へ取上くへし

第六條

地券相渡す時手数料として金五兩日本地方官へ納
むへし

第七條

日本政府と外國公使と千八百七十年第五月四日取
結ハたつ別紙約書第三ヶ条に隨ハ沽券金以外支々地
所の借主或ハ引受人相續人より永久の地代を一坪に
付金一匁二朱可相納且右約書第六ヶ条に隨ハ居留地
取締入費として借主より年々一坪に付金二朱に越さ
ず高を納むべし

第八條

條約濟外國人民多の証拠無之を以テ地券相渡し不
申事

東京外國人居留地券按

第何番地所

金何圓正に落手せし依て拙者日本政府ノ代として何
具或る引受人或ハ相續人へ東京外國人居留地公けの
繪圖面通り何坪有之第何番の地所と左の方法を以て
永久賃渡せり

第一

千八百七十年第五月四日日本政府と外國公使と取結
ハし取極書第三ヶ条に隨ハ何具或る引受人或ハ相續
人一坪三十七錢五匁の割合ありて地代總高金何圓と毎
年十二月十五日迄に無相違前金子に相納り可申事

第二

何具或る引受人或ハ相續人より右約書第六條に隨ハ
取極せし居留地取締入費と無相違年々領事に納むべ
し但一坪に付金十二錢五匁を過くべからず

自明治三年 至十三年 東京築地居留地貸借沿革表

地所番号	地坪	借地人名	貸借方法	貸渡年月	期限	借地料	地賃 元價	官 和修繕	事故
一	五百七坪四分	栗 戸六三六九	競	明治五年有 全十年有議定	無	八拾六圓七錢 貳厘	未詳	未詳	借地地所片明治 三年三月廿七日 該町領事出書
二	三百拾八坪	全 ト六三六九	全	全五年有議定	全	百拾四圓拾 五錢	全	全	無
三	五百九拾二坪四分	佛 ジノク下ノサ ト六三六九	全	全五年有議定	全	百拾四圓七 六錢	全	全	全
四	四百十七坪一分	蘭 ト六三六九	全	全四年有議定 全五年有議定	全	百拾六圓七 拾八錢八厘	全	全	全
五	五百五拾七坪	全 ト六三六九	全	全五年有議定 全五年有議定	全	百五拾五圓 六十六錢	全	全	全

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

内
關

地所番号	地坪	借地人名	借借方法	借渡年月	期限	借地料	土地元價	官私修繕	事故
十一	五百拾坪六合	白領事 エルストロ	全	全 全 全 全 全	全	百拾八兩八 拾六錢	全	全	全
十	五百拾坪	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百拾五兩三 十六錢	全	全	全
九	四百拾坪九合	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百拾八兩八 拾五錢二厘	全	全	全
八	四百八拾坪	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百拾七兩七 拾六錢	全	全	全
七	三百拾坪三合	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百八兩拾六 錢四厘	全	全	全
六	三百拾坪合	全 全 全 全 全 全 全 全	競	全 全 全 全 全 全 全 全	無	百五兩拾九 錢六厘	未詳	未詳	無

地所海濱、明治九年三月故開政府、告示、

地所番号	地坪	借地人名	借借方法	借渡年月	期限	借地料	土地元價	官私修繕	事故
十二 機甲七三才	五百拾坪合	米 エーエムハット	全	全 全 全 全 全	全	百四拾五兩九 拾七錢六厘	全	全	全
甲十二	二百八坪	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	五拾八兩三錢	全	全	全
十三	五百九坪合	米 ワリスワカ	全	全 全 全 全 全	全	百四十二兩七 拾七錢六厘	全	全	全
十四	五百五坪合	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百八拾壹兩四 拾八錢四厘	全	全	全
十五	四百八坪八合	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百五拾六兩九 拾八錢四厘	全	全	全
十六	四百二坪五合	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百拾二兩九 拾四錢四厘	全	全	全
十七 機甲七三才	五百九坪合	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	百四拾六兩 七拾錢	全	全	全
甲十七	五百二坪六合二分	全 全 全 全 全 全 全 全	全	全 全 全 全 全 全 全 全	全	八十四兩六 拾四錢二厘	全	全	全

地所海濱、明治八年三月故開政府、告示、

二十一	二十	十九	十九	十九	十八	十七	地所番号
二百七十六坪	五百九十七坪	十二坪一合	四百三十三合	四百九十二坪六合	五百二十六坪	八拾坪六分	地坪
全 東 エドワード エドワード	全	全 東 エドワード	全 東 エドワード	全 東 エドワード	全 東 エドワード	全 東 エドワード	借地人名
全	全	全	全	全	全	無	借借方法
全 全 全 全	全 全 全 全	全 全 全 全	全 全 全 全	全 全 全 全	全 全 全 全	明治九年 全 全	借渡年月
全	全	全	全	全	全	無	期限
七拾七圓六拾 七圓三厘	百拾五圓拾 六圓	三四拾圓八厘	百拾四圓八厘	拾七圓	百拾七圓 貳拾八圓	二拾四圓拾 一圓四厘	借地料
全	全	全	全	全	全	未詳	土地 築造 元價
全	全	全	全	全	全	未詳	官 私修繕
全	全	全	全	全	全	無	事故

地租増徴、明治八年
三月廿五日、明治九年
三月廿五日、明治十年
三月廿五日、明治十一年
三月廿五日、明治十二年
三月廿五日、明治十三年
三月廿五日、明治十四年
三月廿五日、明治十五年
三月廿五日、明治十六年
三月廿五日、明治十七年
三月廿五日、明治十八年
三月廿五日、明治十九年
三月廿五日、明治二十年
三月廿五日、明治二十一年
三月廿五日、明治二十二年
三月廿五日、明治二十三年
三月廿五日、明治二十四年
三月廿五日、明治二十五年
三月廿五日、明治二十六年
三月廿五日、明治二十七年
三月廿五日、明治二十八年
三月廿五日、明治二十九年
三月廿五日、明治三十年
三月廿五日、明治三十一年
三月廿五日、明治三十二年
三月廿五日、明治三十三年
三月廿五日、明治三十四年
三月廿五日、明治三十五年
三月廿五日、明治三十六年
三月廿五日、明治三十七年
三月廿五日、明治三十八年
三月廿五日、明治三十九年
三月廿五日、明治四十年
三月廿五日、明治四十一年
三月廿五日、明治四十二年
三月廿五日、明治四十三年
三月廿五日、明治四十四年
三月廿五日、明治四十五年
三月廿五日、明治四十六年
三月廿五日、明治四十七年
三月廿五日、明治四十八年
三月廿五日、明治四十九年
三月廿五日、明治五十年
三月廿五日、明治五十一年
三月廿五日、明治五十二年
三月廿五日、明治五十三年
三月廿五日、明治五十四年
三月廿五日、明治五十五年
三月廿五日、明治五十六年
三月廿五日、明治五十七年
三月廿五日、明治五十八年
三月廿五日、明治五十九年
三月廿五日、明治六十年
三月廿五日、明治六十一年
三月廿五日、明治六十二年
三月廿五日、明治六十三年
三月廿五日、明治六十四年
三月廿五日、明治六十五年
三月廿五日、明治六十六年
三月廿五日、明治六十七年
三月廿五日、明治六十八年
三月廿五日、明治六十九年
三月廿五日、明治七十年
三月廿五日、明治七十一年
三月廿五日、明治七十二年
三月廿五日、明治七十三年
三月廿五日、明治七十四年
三月廿五日、明治七十五年
三月廿五日、明治七十六年
三月廿五日、明治七十七年
三月廿五日、明治七十八年
三月廿五日、明治七十九年
三月廿五日、明治八十年
三月廿五日、明治八十一年
三月廿五日、明治八十二年
三月廿五日、明治八十三年
三月廿五日、明治八十四年
三月廿五日、明治八十五年
三月廿五日、明治八十六年
三月廿五日、明治八十七年
三月廿五日、明治八十八年
三月廿五日、明治八十九年
三月廿五日、明治九十年
三月廿五日、明治九十一年
三月廿五日、明治九十二年
三月廿五日、明治九十三年
三月廿五日、明治九十四年
三月廿五日、明治九十五年
三月廿五日、明治九十六年
三月廿五日、明治九十七年
三月廿五日、明治九十八年
三月廿五日、明治九十九年
三月廿五日、明治一千年

二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二
	五百坪六分	四百九拾坪六分	四百九拾坪六分			四百九拾坪六分	二百九拾坪六分
	東 エドワード	東 エドワード	東 エドワード			東 エドワード	東 エドワード
	全	全	全			全	全
	全 全 全	全	全 全 全			全 全 全	全 全 全
	全	全	全			全	全
	百四拾四圓 六圓八厘	百五拾七圓 拾二圓八厘	百三拾七圓 八圓八厘			百三十六圓 拾六圓八厘	六十六圓八 拾九圓二厘
	全	全	全			全	全
	全	全	全			全	全
	全	全	全			全	無

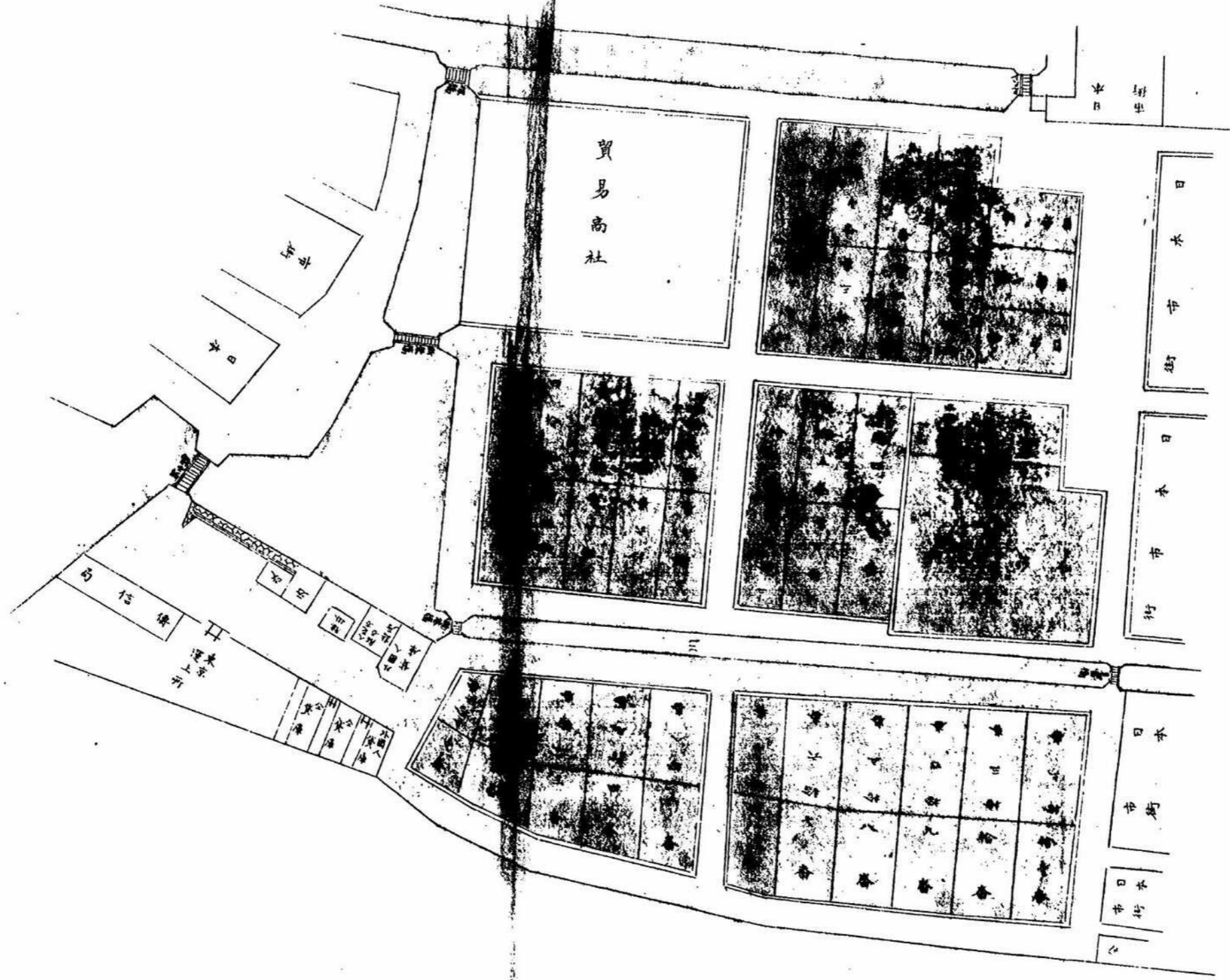
三十六	四十九拾肆畝	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
三十七	四百九拾肆畝	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
三十八	四百九拾肆畝	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
三十九																			
四十																			
四十一	四百九拾肆畝	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
四十二	四百九拾肆畝	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
四十三																			

地所番号	三十	三十一	三十二	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	
地坪	五百坪六合	二千七百九拾九坪二合	二百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝	六百六拾肆畝
借地人名	佛後節出張所	秋	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
借地方法	競債	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
貸渡年月	明治三十四年六月五日	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
期限	公算四月廿日迄	無	全	全	無	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
借地料	百四十圓	七百八拾三圓	七拾七圓	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢	七拾四圓九拾錢
土地元價	未詳	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
官修繕	未詳	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
事故	無	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

四十九	五十	五十一	五十二
拾六坪五合		四百九拾坪五合	四百九拾坪五合
蘭 チヨシノ 英 ウヰル 瑞 チーベル	瑞 チーベル	全 シムロ 英 チヨシノ 瑞 チーベル	全 シムロ 英 チヨシノ 瑞 チーベル
全		全	全
全 四十四年九月十九日		全 四十四年九月十九日	全 四十四年九月十九日
全		全	全
四十六拾銭		百三拾八円 九拾三銭五厘	百三拾八円 八拾六銭五厘
全		全	全
全		全	全
全		全	全

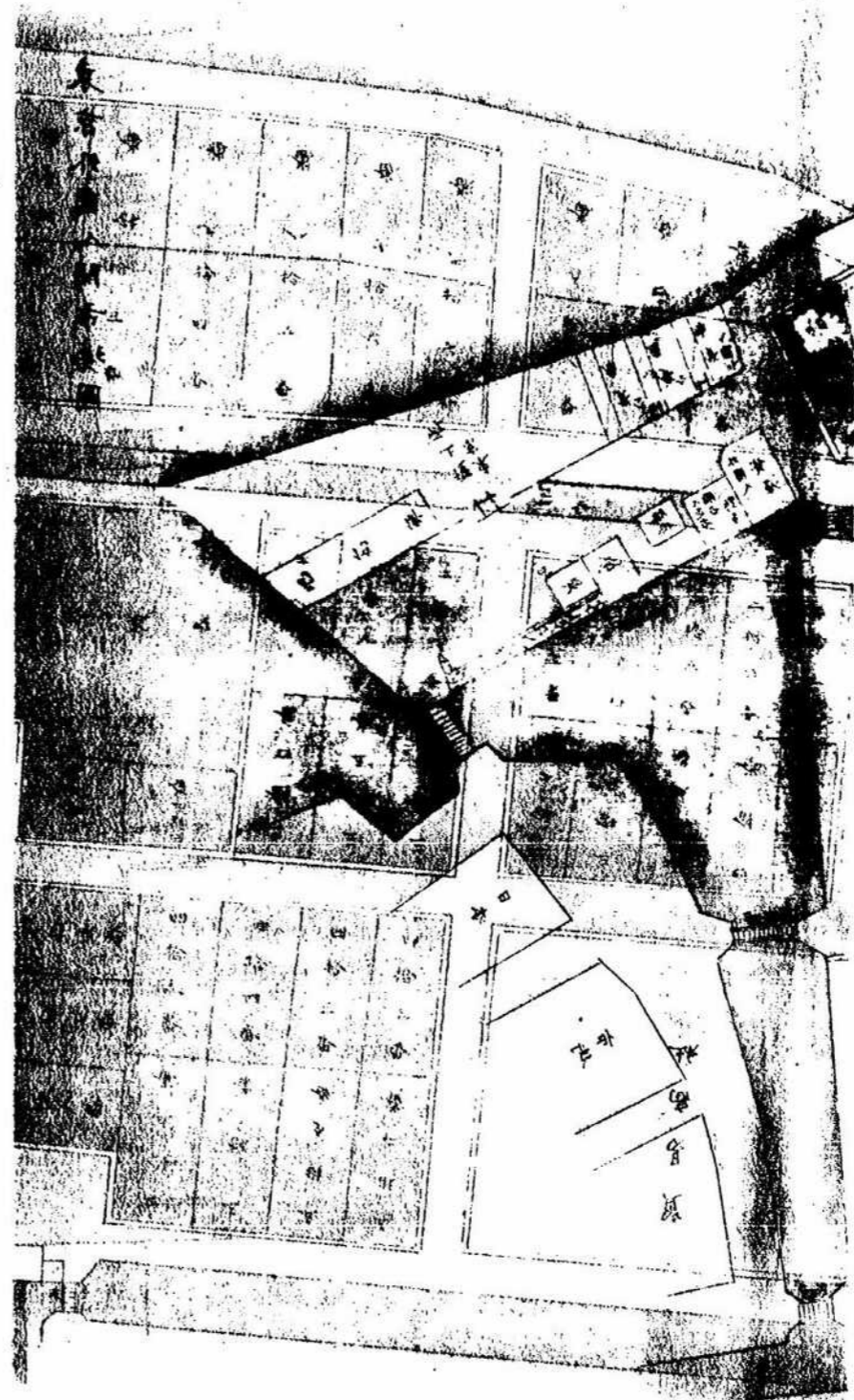
四十九	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四	地所番号
四百八拾坪五合	四百八拾坪五合		四百八拾坪五合			地坪
全 チヨシノ 英 ウヰル 瑞 チーベル	全 チヨシノ 英 ウヰル 瑞 チーベル		全 チヨシノ 英 ウヰル 瑞 チーベル			借地人名
全	全		幾賃			借借方法
全 四十四年九月十九日	全 四十四年九月十九日		全 四十四年九月十九日			借渡年月
全	全		無			期限
百三拾四円 四拾八銭五厘	百三拾四円 拾四銭		百三拾四円 拾四銭			借地料
全	全		未詳			地主元價
全	全		未詳			私官修繕
全	全		無			事故

東京外資銀行敷地平面図



東京築地居留地

○明治三年六月六日
 十八百七十年 居留地ヲ競價シテ第一番地貳番
 地二十一番地二十三番地ヲ米國人ゼーエムバネヤル
 ドへ三番地ヲ佛國人レクラニドレウ井へ四番地十九
 番地ヲ獨國人エルネストマードへ五番地ヲ獨國人
 シーペルへ六番地ヲ米國人デリタムリンへ七番地ヲ
 英國領事館ニ八番地ヲ白國領事館エルストローへ九番
 地ヲ佛國人フールカードブーセノへ十七番地ヲ獨國
 人ハトリーへ十八番地ヲ英國人ライゲンへ二十三番地
 ヲ獨國人ベーマへ三十番地ヲ佛國公使館出張所へ三
 十一番三十二番地ヲ獨國人ヘーレンへ四十一番地ヲ
 全國人ハアーレンスへ四十六番地ヲ英人エーサーへ



一、四十八番地ヲ蘭國人デヨンクヘ貸渡

○明治四年六月十九日 獨國人エルネストセイト所借
ノ四番地ヲ英國人ドブリエードニスルヘ讓渡

○明治四年九月十九日 三十三番地ヲ佛國人アリエツル
トヘ甲四拾九番地ヲ英國人シマンハルトリヘ乙四
十九番地ヲ蘭國人デヨングヘ五十一番地五十二番地
ヲ瑞國人ミールヘ貸渡

○明治五年三月 英國人エーサーヘ一、二番地ヲ借ノ四十
六番地ヲ佛國人アハバルヘ讓渡

○明治五年四月十七日 瑞國人ミール所借ノ五番地
五十一番地五十二番地ヲ全國人ミースレニワルトヘ讓
渡

○明治五年四月 佛國人エシエルト所借ノ三十三
番地百六十七坪五合ヲ甲乙二号ニ部分シ甲百十四坪四合
ヲ全國人クラトヘ讓渡乙百五十三坪一合トス

○明治五年十月八日 獨國人エルネストセイト所借
ノ十九番地ヲ佛國人ハアホールステントヘ讓渡

○明治六年六月 佛國人アリエスルト所借ノ乙三十
三番地ヲ全國人クラトヘ讓渡

○明治六年七月一日 英國人トブリエドントル所借ノ
四番地ヲ蘭國人エトワルトスネルへ讓渡即日全クヨ
リ英國人ニオノサクランニアーアイエビーへ讓渡

○明治七年八月十三日 十番十一番地ヲ米人ニユリヤ
スパンへ三十五番三十六番地ヲ佛人ニシラウニアホ
ストリツクへ貸渡

東京府上申 七年六月十四日

當開市場居留地競貸ノ義曾テ上申ノ通り去ル十日施
行別紙繪面朱料ノ通り米國人ニテ四區ノ地所競貸
口リ依テ別紙并繪圖面ニ添上申ス

兩卿指令

書面ノ趣聞屆候条競貸金并ニ地税金共成規ニ照シ上
納ノ積取調大減省へ申出へシ

○明治七年九月 獨國人バトリ所借ノ十七番地三百
九十一坪ニ合テ申乙ニ号ニ部分ニ申二百二坪ニ合ニ
ケトシ英國人フリシツトブロッノリへ乙八十八坪九
合ハケトシ米國人エフジールへツキへ讓渡

○明治七年十一月二十八日 築地居留地明石町第八番自
耳義團領事ムールロニ地租延滞セシテ以テ条約面ニ
照ラシ具過料金ヲモ徴收セシム

外務省ヨリ東京府へ通知 七年十一月廿八日

府下開市場居留ノ白耳義國領事ムルロニ氏地租淹滞ニ付テハ地券面ノ成規ニ從テ處分云々來示ノ趣ニヨリ則チ別紙甲号ノ通り全國公使へ及照會候處過ルニ二十三日付ツ以テ別紙乙号ノ通り回答申越候就テハ右滞租徴收ノ義ハ彼領事ムルロニ氏へ其府ヨリ直チニ御引合有之度別紙相添申進ス

別紙甲号

外務省ヨリ白耳義國公使へ照會 七年十月三日

以書翰致啟上候然ハ貴國領事ムルロニ氏引受ノ東京居留地内第八番地々租滞納ノ義ニ付先般未屢及御掛合候處去七月凡五日付貴翰ヲ以テ是迄貴國人中地租滞納ノ者有之節地券面ノ定規ヲ踐行不致義モ有之趣縷々御申越ニ付其筋取調候處貴國人東京居留地内ニ

於テ地所々持ノ者ハムルロニ氏一人ニシテ其他無之候ニ付右等處分致シ候義無之尤モ和蘭國人テヨング氏地租滞納ニ付數回往復ノ未當一月中一ト先地租而已相納候ニ付尚引継キ地券面ノ定規ヲ以テ利子過料等速ニ相納ノ候様談判ニ涉リ居候趣畢竟支等モ貴國人ムルロニ氏ノ所為ヲ論柄ト致シ右等ノ所業ニ及テ候義ニ至リ候間全氏義速ニ地券面ノ定規ヲ踐行被致候ハ他人ノ論柄ヲ裁撤可致義ニ有之候間如御來示滞租ノニ取立其他地券面ニ掲ケル一切ノ過料差許候儀ハ承諾難致今閣下ニ於テ此回答ヲ被得候ハ必至公ノ御處分可有之致信用候右得貴意度如斯候敬具

明治七年十月三日

寺島外務卿

白耳義公使閣下

別紙乙号

外務省へ白耳義國公使ヨリ回答 七年十一月廿三日

以手紙致啓上候然ハ當港我副領事ムルロニ氏ヨリ
左ノ通り申越候

過日閣下へ御談示致し候通り築地ハ番地所地代一
件ニ付テハ拙者方ニ於テハ何時ニテモ取扱差支無
之候間日本政府ニ御報知相願度トノ旨申越候尤右
拂方ノ義ハ何様ナル振合ノモノニ御坐候ヤ拙者ニ
ハ委細承知不致候得共全氏ヨリノ書翰ニヨリ候得
ハ借入ノ宅ニテ相拂候儀ト存候
右ノ手都合ニ相違無之候ハ、埒明キ候条御取計相
願候此段得責意度如此候謹白

千八百七十四年十一月廿三日 在横濱ゼドグロツト

寺島宗則閣下

○ 明治七年十二月廿八日 居留地内外住居ノ外國人地料延
千八百七十四年 滞ノ節彼我談判結局ノ日迄ハ滞租ノ義ニ付地所証書

ニヨリ遺料金取立ハク且ツ地料徴收改期談判中タリ
トモ協議結了マテハ從前ノ通收入スヘキ旨ヲ達ス

東京府上申 七年十二月四日

當開市場居留地居住外國人ノ内地料高價或ハ公私儲
ノ外國人居留地外ニ住居シ或ハ居留地内道路充ふナ
ラサル等彼是不奈理ノ義ヲ口實トシ地料拂方相拒ミ
候者數負有之ニ付當府ヨリハ其國領事外務省ヨリハ
其國公使へ屢々照會ノ末即今拂方ノ運ニ至リ候モ

ノモ有之處別紙地所証文第三ヶ条ニ據レハ地料延滞
ノ者ハ其高ニ對シ二分ノ過料可取立等ニ候処右取立
期限ノ義本年七月以後ハ一ヶ年ノ分年跨不相成様處
分スヘキ旨先般租稅寮ヨリ指令有之候ニ付其段各國
領事ハ協議中トシテハ右決議ノ上領事ヨリ管下人民ハ
布達迄ハ地料取立方ハ見合置筋ニ可有之哉且ツ過料
金ノ義元全ク當六月三十日迄ノ分ヲ後收シ其餘ハ免
除致シ可然哉ト存候又訴訟入費ノ義ハ當府ヨリ其國
領事ハ照會セシノミニテ可取立品料無之候依之此段
相伺フ

過料取立期限ノ義本文ノ通相伺候ニ付テハ白
耳義人正ルストロース滞租ノ分モ別紙外務省
未通第一号ノ通可仕拂手續相成候ニ付本文伺

附 準シ六月三十日迄ノ期限ニ致シ過料取立候
様可仕哉尤モ拂方承諾致候月日ヲ押ヘ取立テ
當然ナル哉ニハ候得共白耳義公使返翰ノ趣ニ
テハムールロシ義右地ニ拂方何時ニテモ取扱
差支無之トノ趣ニ有之且右仕拂方ニ付テハ改
ニ別紙第二号ノ通り二月中回答モ有之候末ノ
義ニ付即今ノ回答ヲ以テ承諾ノ期限トモ着做
カタク此他滞租ノ中ニハ右様ノ元ノモ有之旁
都テ六月三十日ヲ以テ過料取立ノ目途ト相定
申度

指令 十二月廿八日

書面地料淹滞ノ内白耳義國人等ノ義ハ昨明治七年二
月回答ノ旨モ有之ト虽氏過料ノ義不服云々ニテ遂ニ

全年十月三日回答之アルマテハ全ク淹滞ノ義ニ付縦
令徵收方改期申談中タリトモ右十月三日迄ノ過料金
ハ取立ル義ト相心得ヘシ

但地料徵收ノ義モ改期談判中ヲ以テ取立見合スル
ハ不都合ニ付協議結了スルマテハ無論従前ノ通收
入スヘシ

○明治八年一月廿三日 外國人居留地ハ官有地第三種ニ編
入シ區費ハ貸地料ノ内ヨリ任拂ハシム

東京府上申 八年二月廿八日

外國人居留地區入費課出ノ義ヲ伺タルニ貸地料ノ内
ヨリ任拂フヘキ旨去ル一月廿三日御指令ノ趣領承ス
右ハ一々年分前納ノ約條ニテ既ニ取纏ノ上納セリ然

ルニ區入費ノ義ハ月々任拂フヘキモノニ付右前納金
ノ内ヨリ一々年分豫算除去假納シ翌年ニ至リ差引決
算本納取計フヘクヤ又ハ前納金額ハ従前ノ通り上納
シ區入費ノ義ハ毎月別途御下渡可相成哉尤區入費ノ
義ハ月々多少増減有之當今ノ處ニテ一々年分元金五
十圓程出金ノ計算ナリ前条如何取計フヘクヤ至急御
指揮ヲ乞フ

指令 三月廿日

借地料ハ是迄ノ通上納シ區入費ハ毎年兩度ニ分割別
途前渡致スヘシ尤年年總計帳進達ノ節決算書差出ハ
ハシ

参照

東京府上申 八年一月七日

昨七年第百二十号ヲ以テ地所名稱區別公布相成候
 処外國人居留地ノ義ハ己ニ官用地組込ノ義一昨
 六年租税寮へ申立濟ニテ外國人ヨリ地代取立候ニ
 付地租區費ハ當廳ヨリ仕拂可申答然ルニ客歲御改
 定官有地第三種但書ニ據レハ區入費ハ借地人ノ賦
 課スヘキ義ニ候得共該費ハ十二八九ハ外國人ニ不
 關費用ニ付國人全樣賦課ニカクカラシメ因之従前ノ
 通居留地々租ノ内ヨリ支出スルコトアルマシク存
 候得共各港居留地中右類似ノ義モ有之區々相成候
 テハ不都合ニ付処方相伺フ
 指令二月廿二日
 書面居留地ノ義ハ同ノ通官有地第三種ノ組入區入
 費ノ義ハ領地料ノ内ヨリ具府ニテ仕拂候義ト心得

○ 明治八年一月廿八日 第十番第十一番ヲ米人ジユリヤスパ
 千八百七十五年
 ニニ 第三十五番第三十六番ヲ棉人ミシオウニアホス
 トリツクニ無年季貸渡シタルヲ以テ具競落金三千百四
 十七圓七十四錢ヲ上納セシム
 競落金任譯書上申付略ス
 一金三千百四十七圓七十四錢

附書面競落金ノ義ハ最前地所渡候節一時ノ取立モノニシテ後
 等年ニ至リ再度可取立譯ニハ無之候

内
 金七百九十三圓六十錢

是ハ居留地第十番競落金米利堅人ニシヨリ

ソサイテ、オスセ、ソソテイス、エコスコーハルケヨル
チヨリ取立候分

但坪數五百十二坪

金八百十九圓三十三錢

是ハ居留地第十一番競落金前全ケヨリ取立候分

但坪數五百坪十八坪六合

壹坪：付
前全

金七百六十七圓四十錢五厘

是ハ居留地第三十五番競落金佛國人エムマホストリ
ツクヨリ取立候分

但坪數四百九十五坪壹合

壹坪：付
前全

金七百六十七圓四十錢五厘

是ハ居留地第三十六番競落金佛國人前全ケヨリ取立候分

但坪數四百九十五坪壹合

壹坪：付
前全

右ハ明治七年七月居留地競落金取立高書面ノ通候也

指令 八年一月二十八日

書面外團人居留地競落金三千百四十七圓七十四錢當省

地理寮ノ上納スヘシ

○明治八年一月
千八百七十五年

獨國人アハバル所借ノ四十六番地ヲ

全團人サインドマチルトハ讓渡

○明治八年三月廿三日
千八百七十五年

外國人居留地區入費明治六年十二月ヨリ全七年十二月迄金三十六圓二十錢七厘ヲ府廳

ハ下渡ス

東京府上申 八年二月廿七日

東京居留地區入費ノ義ハ小間割等調査ノ都合ヲ以テ
未ク課出セザリト処今這任拂方戸長ヨリ申出タリ然
ルニ該地借地料ハ已ニ悉ク上納相濟可任拂金額無之
候間別紙勘定書ノ通り明治六年十二月ヨリ客歲十二
月マテ十三月分合金三十六圓二十錢七重別途御下渡
相成度

居留地貸渡濟坪數

一 壹万二千四百七坪八合

小間八間八分六厘
但一ト小間千四百坪

一 金三十六圓二十錢七重

明治六年十二月ヨリ全七年十
二月迄區入費御下渡可相成分

指令 月日

伺ノ通金三十六圓二十錢七重地租察ヨリ下渡スヘシ
請取方申出ヘシ
但居留地ノ義ハ官有地第三種ノ組込ヘシ

○明治八年四月七日 築地南仲通り三十番地佛國公使出
張所トシテ所借ノ地所ヲ返還ス

東京府上申 八年四月十四日

築地二丁目佛國公使館出張所ノ義外務省ヨリ別紙ノ
通り通知有之此段上申ス

別紙

外務省ヨリ東京府へ通知 八年四月十二日

佛國臨時代理公使ヨリ築地南仲通全圖公使館屬地
トシテ譯官トフスケへ貸渡セシ約定諸書類返納可
致旨別紙ノ通照會アリト虽氏未ダジブスケヨリ約
定書差出無之候得共為御心得此段申進ス

別紙

佛國代理公使ヨリ外務省へ來書 八年四月七日

以書翰啓上致し候然しハ去ル一千八百七十年三月ニ當リ貴政府ノ御尊志ヲ以テ東京府下ニ在ル築地南仲通り三十番地ノ壹ヶ所佛國公使館付属地ト稱へ我國公使館ノ譯官ナル同バスケ方ノ御貸被下候然ル処今般右ノ者ハ其地面退去致し候ニ付テハ我公使館ニテハ以來地面保持致し候ハ無之候間於拙者ニ貴政府へ右場所返却仕候義閣下へ報知イタシ候且又ジブスケハ一千八百七十年三月一日ヨリ五ヶ年ノ間右ノ地面ヲ所持致し候條約ノ諸各類ヲ閣下へ相納メ候間此段可得御意候敬具

一千八百七十五年四月七日 佛國代理公使デサンカニテニ

外務卿寺島宗則閣下

○明治八年七月一日 英國人ライケン所借ノ十八番地ヲ米岡人ジョー夕ブリシユーパーンホーベンボルフへ讓渡

○明治八年九月廿五日 築地明石町居留外國人元所用倉庫跡地貳百十二坪五合一勺五才ノ地所ヲ道路敷トスルヲ以テ官有第三種ニ編入セシム

東京府上申 八年五月廿二日

府下築地明石町元倉庫地跡處分ノ義ニ付本月四日御指令ノ趣有之再應取調候處元來右地所ハ新港橋際ヨリ道路中央へ突出シ車馬通行ノ便利甚不都合ニ有之候處今度辛々空地トナルヲ以テ上面朱引ノ通り百三

十六坪九合六勺ハ道路ノ組入残地搦際ヨリ線七十五坪五合五勺五才ハ租稅寮ノ方ヘ圍込相成候ハ、通行ノ便利ハ勿論体裁モ宜敷候間具通取計申度此段再應相伺、

指令 九月廿五日

書面ノ趣ハ最前百八号ヲ以テ伺ノ通り悉皆道敷ニ組込ノ義聞届候条官有地第三種ニ編入スヘシ

参照

東京府上申 八年三月廿九日

當府明石町外國人居留地舊差配人共ニ於テ外國人ノ為メ取設ケテ貸庫曩ニ海軍省ニテ引度ケ本材木町三丁目二十四番地西村勝藏ノ拂下相成同人ニ於テ該庫取毀ケテ跡別紙繪番面朱引ノ通り二百十六

坪餘當時空地相成候処此程全空地先米團公使館ヨリ右地所ハ新港搦詰ノ義ニモ有之道敷ノ組込候ハ相成間敷哉、旨照會有之勘考スルニ該地ハ素ヨリ外國人居留地内ニシテ吾人民ノ所有マシムヘキ場所ニアラズ且又荒蕪ノ儘閣クトキハ自然不潔ニモ相成体裁モ宜シクシテハ傍道敷ニ組込申度此段相伺、

指令 五月四日

書面元庫地跡別紙番面掛紙ノ外ハ道敷ニ組入ル積残地ノ義ハ租稅寮用内ノ圍込可相成ニ付圍込地道敷共分割坪數取調早々申出ヘシ

○明治八年十一月十七日 外國人居留地ノ料ハ進テ納期改

正マテ姑ク舊ニ依リ徵收セシム且ツ年度更正ノシ
ノ地料延滞ノ利子ハ徵收セサル義ト可相心得旨ヲ達
ス

東京府上申 八年六月三十日

明治六年十一月租稅寮ヨリ東京居留地々料ハ年跨不
相成様具年ノ地料ハ前年十二月十五日迄ニ前納候様
各國領事ノ可達協議旨達セラルシニ付具段各國領事
ノ照會ノ末承諾ノ國々ハ前条々ニ準ヒ可請取知七年
七月以後ノ地料延滞ハ全ク従是更正ヲ求ムル為メニ
生テシ義ニ付假令年跨更正承諾セシト雖モ各國領事
悉皆全意確定致シ候迄ハ當然ノ地料ニ請取淹滞ノ
慮ヲ以テ利子ハ難請取義ト存候得共一應為念相伺
フ

指令十一月十七日

書面居留地々料收入期限改正ノ義ハ逐テ確定ノ上可
相達候條姑ク従前ノ通り收入スヘシ尤年度更正ノ為
ノ地料淹滞ノ糸ニ限リ利子徵收セサル義ト心得ヘシ

○明治八年十二月十九日 外國人居留地々料納期改正ニ
キハ百七十五年
ントスルヲ以テ各國公使ニ通知ス

東京府上申 六月廿八日

當開市場居留地々料徵收年度更正ノ儀各國領事ノ照
會ノ末和蘭獨乙瑞西三國ハ已ニ之ヲ承諾スト虽モ其
他未ク確答無之就中英兩國領事陳申ノ趣ハ該件ハ各領
事ニ於テモ異存アルマシク下居留地關係ノ義ハ領
事ノ權内ニ無之公使ノ命令無ケレハ施行スルヲ能ハ

ハ然ルニ英公使等ハ未タ外務省ヨリ照會ヲ得スト云
ハリト由是特リ領事ハ之ヲ督促スルモ到底急速ニ運
ニ申マシク依之更ニ外務省ヨリ各公使ハ引合相成度
全省ニ追々具申スト虽トモ未タ結局ニ至ラズ為ニ納
租ノ期ヲ失シ候間全省ヨリ米英佛自四ヶ國ノ公使ハ
再應督促有之候様御省ヨリ御稟議早々決定相成候様
致シ度

外務省ハ照會八年十二月十九日

各開港場居留地々料收入年跨相成歳計上混淆ヲ生シ
甚不都合ニ付該歳七月ヨリ翌年六月迄ヲ歳計ノ一周
年ト取極地料取立候様致度尤モ當府下ヲ除キ差向他
開港場ノ改期御談判有之度去ル十月廿三日付ヲ以テ
照會候処東京府ニ於テハ一昨六年大蔵省ノ指令ニ遵

ニ各開領事ハ掛合米英佛自四ヶ國ヲ除キ他ノ領事ニ
於テハ已ニ之ヲ承諾スト虽氏居留地規則ニ關スル件
ハ領事ノ権内ニ無之候間七年太政官番外會計年度改
正ノ公達ニ基テ更ニ右國公使ハ改期ノ儀御談判有之
度

指令十二月十九日

書面ノ趣ハ昨七年十月會計年度改正ノ公達ニ照シ地料
收入ノ義モ改正可致若更ニ外務省ハ照會ヒリ此旨相
心得ヒシ

○明治八年十二月
千八百七十五年
英國領事館所借ノ七番地ヲ米國人ハ
パルンハ讓渡

○明治九年三月十二日
居留地々料ハ追テ納期改正マ
テ姑シク舊ニ依リ徴收セシム

東京府上申

開市場地租并諸税ノ内ニハ貸渡年月ヨリ全一周年ヲ
算シ徴收マシム歲入ノ計算ニ至リ混淆不夥ニ付今後
ハ約定取結候節該年分ノミラ取立其年二月ニ至翌全
年分前納セシメ年跨不相成様知分スヘク去ル明治六
年十一月租稅寮ヨリ達セラレ尋テ従前ノ分モ慣法ニ
均ハラス前全様ノ振合ニ改正スヘク達セラレシム知右
收入期限變更ノ義ハ居留地規則ニ關係スルヲ以テ外
務省ヨリ各團公使ハ照會ノ上ヲラテハ結了シカタク
其段全寮ハ申立尚ホ各團領事ハ談判シタルニ獨乙荷
蘭瑞西三ヶ團ハ之ヲ承諾シ既ニ昨年分ヨリ右請求

通り收入シ具餘ノ領事モ敢テ異存無之候得共公使ヨ
リ命令ナキヲ以テ借地人ハ布達猶豫ノ趣ニ相聞ヘ候
ニ付各公使ハ督促ノ義外務省ハ申立其段昨八年六月
中御省ハ上申候処右ハ一昨七年十月太政官審外會計
年度御改正ノ公達ニ照シ改正可相成績外務省ハ御照
會ニ付具意ヲ得ヘク旨指令有之然ルニ全年二月乙第
二十一号ヲ以テ各開港開市場ニ於テ各團人民官地官舎
拜借料上納期限ヲ達セラレタル節地料納期限ニ付全
三月中支第百七十五号ヲ以テ伺ヒ之趣有之知該達中第
二種官地ト有之ハ外團公使館及テ居留地公園地競馬
屠牛場墓地等ノ類ニテ居留地々料ノ儀ハ改期着手ノ
通取計ヲヘク指令ニ付追々右ニ準シ著手セシム知前文
ノ通更ニ改正セラレハ裁ナラハ最前談判ノ趣ハ取消

レ既ニ改期納税ノ独蘭瑞等ノ如キモ猶右ニ照準引直シ
方談判スハク義ハレ氏即今外務省御協議中ノ趣ニ付
重テ御指令有之迄ハ先ツ其儘据置追テ御確定工外領
事一全遂談判可然哉

指令 三月十二日

書面居留地々料收入期限改正ノ義ハ追テ確定相違ス
ハレ姑ク慣行ニ従カレ收入スヘシ尤早度更正ノ為
ノ地料淹滞ノ外ニ限リ利子收入スヘカラス

○明治九年三月五日 築地居留地明石町第一番第二番
千八百七十六年 築地居留地明石町第一番第二番
第二十一番第二十二番所借未入ニ上ム、ハツケヨルトル
及第十七番所借全團人フリビエト、アルマン等地料淹滞
セシヲ以テ該領事ニ告訴セシム

東京府上申 九年三月五日

府下外國人居留地所有米國人ノ内二名地料未納ニ付
右取立方敷度全團領事ハ掛合結局領事ノ所々難行届
外務省ヨリ全團公使ハ談判ノ末公使回答ノ趣ニ隨ヒ
本式ノ手續ニテ右地所擔任ノ官負テ以テ當府代人
原告ニ相立米團總領事館ハ地料未納人ヲ被告致シ候
處右訴訟入費証拠金トシテ一ト廉ニ付五十弗充都合一
百弗可差出旨申越候間右ノ趣ニ取計ヒ可申ト存候
尤モ右ハ始メテノ義ニ有之候間具段外務省司法省
共遂稟議申候為念此段御届ニオヨフ

居留地淹滞地料訴訟入費証拠金ノ義ニ付東京府ハ
甲号ノ通リ掛合ヒ号ノ通リ回答卷末東京府ヨリ亞
團領事ハ訴告状中引証ノ競賣々条第五條及ヒ地所

証文第一項第三項ハ別紙丙号
前ノ總則ニテ地所証文等
署ノ通りニ有之右第三項ノ始ノニ云々具領事之ヲ
吟味スヘシト有之末ニ日本長官ニテ裁判スヘシト
有之ハ吟味ハ彼ニ属シ裁判ハ我ニ属シタル如ク間
ユレトモ本条約書第六條末文ニ前段互ニ他國ノ法
ヲ犯ス自國人ハ自國ノ法ヲ以テ裁判致等ノ意ヲ承
ケ未段ニ双方商人通債等ノ事ヲモ公ケニ取扱フヘ
シト有之因テ書類供展閱
甲号

東京府ノ地理局ヨリ照會 九年三月十二日

米國領事館ノ可差出居留地淹滞地料訴訟入費証拠
金ノ義、付御開申相成シ地料淹滞ノ地ハ何番地ニ
候哉米國領事往復外務司法兩省ノ御稟議書共寫相

添願未早々開申有之度

乙号

東京府ヨリ地理局ノ回答 九年三月十七日

米國領事館ノ差出マシ居留地淹滞地料訴訟証拠金ノ義最キ開
申マシ外右地料淹滞ノ地區并ニ領事ノ往復外務司法兩省稟議ノ寫
相添願未委曲申進スヘク來書ノ趣領承則チ別紙書類ニテ御承知有之度
尤外務省ノ協議ハ御輔ヘ面語セシ義ニテ書類ハ無之候此段回答ス

司法省ノ東京府ヨリ上申

居留地債渡アル米國人二名借地料久敷未納ニ付米國領事ノ取立方數
々照會ノ未領事ノ処分ニ行届キカキヲ以テ公使ノ申立ニ百回答有之ニ付
當府ヨリモ外務省ヘ申立全省ヨリ米國公使ノ照會相成候外公使ヨリ回
答ニ地料不納ノ者ハ本式ノ手續ヲ以テ合衆國總領事ノ告訴致セハ領事ニ
テ公然裁決可致トノ趣ニ甘キ属負ヲ當府代人原告トシ地料未納人ヲ被告トシ

米田領事ノ審断ヲ請フタルニ米田ノ法令ト適例ニ拠リ審判スヘク就テハ裁
判未著手前右入費証拠金トシテ一應ニ付五十弗宛都合一百弗領事廳へ可差
出旨申來外務省ト協議シ請求ニ應ニ差出ス積リテ右ハ實例無之義ニ付
為念開申ス

司法省ヨリ東京府へ回答 九年三月四日

東京居留地之料淹滞ノ義ニ付米田領事ノ審判請求ノ為ニ証拠金差入方々領承
ス右ハ彼ノ國裁判上ノ成規ナルヲ以テ當省ニ於テ異議無シ此段回答ス

第一号

米田領事へ東京府ヨリ往翰 五年八月廿四日

以手紙致啟上候然レハ當港居留地々所有ノ賣田人民ノ内地
和未納ノ者有之候間別紙勘定書ノ通り早々運上所へ差出
シ候様御下令被下度右可得御意如斯御座候以上

明治五年八月廿四日

東京府知事大久保一翁

米田領事ニ一ラ一セハルト貴下

別紙

勘定書

第一番

三百七十四坪

ニヶ年分地租金二百三十兩二步

但 千八百七十一年第七月一日ヨリ全七十二年
六月三十日迄賣ケ年金百十五兩壹步

第二番

三百五拾八坪

ニヶ年分地租金二百六十八兩二步

但 前全漸壹ヶ年金
百三十四兩壹步

第二十一番

二百七十七坪四合

前全人

二ヶ年分地租二百八兩

但前全斷壹ヶ年
金百四兩

第二十二番

二百三十八坪九合

二ヶ年分地租金百七十九兩貳朱

但前全斷壹ヶ年
金八拾

四口 合金八百八十六兩貳朱

第二号

米團領事ヨリ東京府へ回答 五年十月十四日

貴團八月廿四日付尊翰ニテ御申越ノ義ニ付我團人東
京居留地々税不納ノ納方為致候様相違置候得共一應
左ノ事情ニ有之候間御掛合才ヨリ置候扱東京外國人
居留地外ノ洋人居住ノ義御差許有之候義ニ付築地居

留地ノ義ハ地税若干ノ違ニ相成且ツ全所借主ノ外國
人ノタノニ不都合ナレ事不少候右事情ニ有之候中ニ
テ右地税不納御取立可相成ニ候ハ先般會議ノ御決
定通り御充テ御取行可被成ト存候就テハ公使館住居
ノ外國人ノ外ハ不納居留地内ノ必居住為致候方可然
義ト存候右貴報旁如此御坐候

在神奈川合衆國領事館

千八百七十二年第十月四日 領事ニテラニセバルト

東京府知事大久保一翁貴下

第三号

米團領事へ東京府ヨリ往翰 五年九月廿一日

貴團第十月四日付ニテ御回答ニ東京居留地々税納方
ノ義夫々ノ御申達相成且居留地外ノ居住ノ外國人地

税若干ノ違ヒ有之不都合ノ旨御申越ノ趣承知致シ居
留地外ノ居住ノ者連ハ當春築地ニ罷在候モノ火災ニ
罹リ一時居所差支候モノニ限リ不得止外々ハモ居
住差許候次第右モ相對借家ノ場所追々家作出来ニ及
候上ハ差止ノ候積リ其外自儘ニ居留地外ノ地所借
受居住ノモノハ無之筈ニ候尤諸省其外ニ相雇置候モ
ノハ其雇主ノ都合有之居留地外於テ家作賃渡置候モ
ノ有之候得共右雇中ハ我人民全様所置可致筈ノ規則
ニ付右等ノ者ヲ指シテ御申越ノ義ニハ有之間敷哉具
外一般隨意ニ居留地外ノ居住差許シ候義ハ更ニ無之
候此段御答旁可得御意如此御吐候以上

明治五年九月廿一日

東京府知事大久保一翁

合衆國領事シー、ラー、バルト貴下

第四号

米國領事へ東京府ヨリ往翰

六年四月廿四日

以書狀致啓上候陳レハ貴國人ベエツケヨルトル義東
京居留地第一番ヨリ第二十二番へ差跨リ候四區ノ地
租千八百七十一年第七月一日ヨリ全七十二年第七月
一日迄ニケ年分ノ地租相滞候ニ付一昨年中ヨリ右納
方御下令ノ義申進候得共今以拂方無之候間前文地租
合金八百八十六円拾ニキ五重ハ勿論ニ分ノ過料共利
金共早々御取立税関ハ御差越有之候様致度候敬具

明治六年四月廿四日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國領事シー、ラー、バルト貴下

第五号

米利堅領事ヨリ東京府へ回答

六年四月三十日

第四月廿四日付ノ貴翰落手仕候然ハ我剛ベクマルド
ル氏兵庫表ヨリ歸著相成次第直クニ御朱意ノ趣可申
達候右御回答如此御坐候敬具

千八百七十三年第四月三十日 合衆國領事シ、オ、セパルト

東京府知事大久保一翁貴下

第六号

米岡領事ヨリ東京府へ來翰 六年五月廿六日

一筆致啟上候然ハケビラレバエテヨルトル義東京ニ
於テ全人地税金期限一件、付貴君ト御熟談仕候由申
出候右ハ全ク事實無相違義ニ候哉御尋問申上候若シ左
様無之候ハ、當裁判所ニテ全人篤ト取札ノ上家財賣
拂可申付候謹言

横濱米岡領事館

千八百七十三年五月廿六日

シ、オ、セパルト

東京府知事大久保一翁貴下

第七号

米岡領事へ東京府ヨリ回答 六年六月二日

去ル廿六日付ノ御書狀致披見候然ハ貴國人ジエム、
ベエテヨルトル地租滞金拂方ノ義ニ付被御申越候趣
致承知候右ハ全人義去ル廿六日税関へ罷出右仕拂方
ノ義貴下ヨリ御下令ノ次第有之候ニ付一週日以内
拂方致シ候旨全所諸官負へ申聞候趣ニ有之右ノ外別
ニ熟話等ヲヨヒ候義ハ無之候且又最前申進候地券面
約定ノ通り利分ヲモ全様取揃ヒ右一週日以内無相違税
関へ相納ノ候様猶又御命レ置被下度存候此段御回答
旁得御意候敬具

明治六年六月二日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國領事シーラーセパルト貴下

第八號

米國副領事へ東京府ヨリ往翰

日六年十二月十一

以書狀致啓上候然レハ東京居留地第一番ヨリ第二十番一差跨候四區ノ地所有イタシ候貴國人へエテヨルトル氏義地租別紙ノ通り相滞居候ニ付一昨年中ヨリ右洲方御下命ノ義御先任セパルト氏へ申進置候處其後同氏ヨリベツチヨルトルへ地租拂方被申渡候致申越有之然ルニハエツチヨルトル氏先般税關ノ罷越レ一週日以内拂方致シ候旨等申立候趣ニ有之候得共其後七ヶ月程ニ過去リ今以テ洲方無之右ハ差支候間滞高千三百二十九圓拾八錢七厘五毛ノ外ニ兼テ居留地証文規定ノ通二分ノ過料利金高取揃當月十五日マテニ御取立税関へ御差越レ有之候様致シ度右ノ外

40

第十七番地、内ソーム、バラートポト外一人所持
 〆、勿々當年七月可納金三十三圓三十七錢五厘、今以テ
 未納ニ候間是亦左様御取立御差越有之度右之趣御義
 知ニ候ハ、其改至急御回答有之度存候敬具

明治六年十二月十一日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國副領事 ジョージ・エドワード・ミッチェル 貴下

十二月十二日小花作助横濱へ出張最前セハルト
 附 ヨリ、書翰ヲモ持參五人へ引合置候次第柄申談
 筈早速辨方有之度旨申入候處一應ハツチヨルトル
 相紀候上否可申越、積、申聞候事

別紙

地租勘定書

第一番坪數三百七坪四合 一、エツチヨルト所有地

此地租

金百拾五圓廿五錢	五千七百七十二年六月廿七日迄一年ヨリ分
全斷	五千七百七十三年六月廿七日迄一年ヨリ分
全斷	五千七百七十四年六月廿七日迄一年ヨリ分
合金三百四十五圓七十五錢	當七月可相納分

第二番坪數三百五拾八坪 前 全 人

此地租

金百三十四圓廿五錢	五千八百七十一年七月一日迄一年ヨリ分
全斷	五千八百七十二年七月一日迄一年ヨリ分
全斷	五千八百七十三年六月廿七日迄一年ヨリ分
全斷	五千八百七十四年六月廿七日迄一年ヨリ分
合金四百二圓七拾五錢	當七月可相納分

第二十一番坪數二百七十七坪四合 前 全 人

此地租

金百四圓

千八百七十一年七月一日迄一箇年分

左断

千八百七十三年六月廿七日迄一日ヨリ分

左断

千八百七十三年六月廿七日迄一日ヨリ分

合金三百十二圓 當七月可相納分

第二十二番坪數二百三十八坪九合前 五人

此地租

金拾九圓五拾六錢二厘五毛

千八百七十一年七月一日迄一ヶ年分

全断

千八百七十三年六月廿七日迄一ヶ年分

左断

千八百七十三年七月一日迄一ヶ年分

合金二百六十八圓六十八錢七厘五毛 當七月可相納分

總計金千三百二十九圓拾八錢七厘五毛

第十七番地、内坪數八十八坪九合八勺

クローラスハラートホート
グレートブリートンランドの王 二人所有

此地租

金三十三圓三十七錢五厘

千八百七十三年第七月一日ヨリ
千七百七十四年六月マテ一ヶ年分

第九郷

米國副領事、東京府ヨリ 謹翰 七年一月廿日

以書狀致格上候然ハ東京開市場第一第二第二十一第
二十二都合四ヶ所、地所々有致シ候貴國人ハツチヨ
ルドル地租耕方帶ノ義ニ付旧年十二月十一日付付
以テ申達其後當府官員ノ以テ申入候次第
夫有之候處未ニ御答無之義候間早々相
拂候様御處置、上否御回答有之度此段猶又申進候故
具

明治七年一月廿日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國副領事レヨルシエメイツチル貴下

第十號

米國副領事ヨリ東京府へ回答 七年一月廿四日

一 翰致格上候陳ハ東京居留ケピテンバチヤルドル並
ダブリユウエーチタムソン、西人地租不拂ニ付右拂
方可致様御申越、御書翰夫々落手兼知仕候然ル處地
券面ヲ以テ地區被貸渡候義ニ付地券面、通り一般被
行候迄ハ拂方不致旨今人等申立候尤至當、義ヲ以テ
御申越相成候ハ、換通り處置可致候此致御報知斯ニ
御座候謹言

千八百七十四年一月廿四日

合衆國副領事 ショルジェス ミンチヤル

東京府知事大久保一翁貴下

第十一號

米國副領事ハ東京府ヨリ注翰 七年二月五日

一月廿四日付第四百四十一號、貴翰ニテ貴國人ハツ
チヨルトル並タムソン、西人地租不拂義ニ付地所証
文面通り一般被行候迄ハ拂方不致旨今人等申出候ニ
付至當、筋ヲ以テ申進候ハ、換通り御處置可被成旨
御申越、致驚入候次第ニ候右ハツチヨルトル所有地租
ノ義ハ一昨年来屢セバルト氏ハ御城合ノ上既ニ舊年
五月廿六日付ニテ今人家財ヲ為賣捌候テモ拂方可為
致旨御申越有之當人於テモ其節一週日程モ猶豫、義
申出候程ニテ其後延引ニ付猶又御催役ニ及ヒ候處當
今ニ至リ拂方不致趣申立候ハ、最前セバルト氏ノ書
翰並當人ノ申立モ全ク一時詐謀ノ事ニモ可有之歟ト
疑念ヲ生シ是驚入候次第ニ候且地所証文面ハ對シ違
背致レ候モノ、内已ニ三ヶ年分、地租滞居候者ハハ

ツチヨルトル一人ニテ外ニ右様ノモノハ無之殊ニ至
當ノ義ヲ以テ申進候ハ、按通り御處置可被成ト、趣
ニ候ヘハ、敷テ取極候地所証文面一對シ地租滞リ候ニ
付貴下、御職掌一對シ申進候義ニテ素ヨリ至當ノ筋
ト心得候トモ何等不至當、譯ニ候哉是亦委曲御申越
相成候様致レ度右不條理ト御見居相成居候上ハ無據
其筋一可申立候間今一應此御確答有之候様致度石可
申進如此候故具

明治七年二月五日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國副領事

シヨルチエスミンツエル貴下

第十二號

米國副領事ヨリ東京府へ回答

七年二月十日

本月五日付第十八號ノ貴翰落手致被見候然ハ地所ノ

義ニ付テハ處分ノ次第柄ヲモ既ニ御報告致シ置候處
其義篤ト御了解相成候様ニモ相見不申候ニ付當領事
館ニ於テ委細御對話致レ度候間英語ヲ解スル官員御
差向被下度願上候且其節本月五日付第十九號御書翰
ノ事ヲモ篤ト御談判可致謹言

一千八百七十四年二月十日

合衆國領事 ジョルジエン・ミイチャル

東京府知事大久保一翁貴下

第十三號

米國副領事、東京府ヨリ送翰

七年二月廿一日

四百六十二號御書翰本月十七日相達致被見候陳ハ本
年第十八號十九號ヲ以テ及御裁合置候ベツチヨルト
ル氏、地租滞一條並タムソノ氏官許ヲ燭富札興
行、兩條ニ付御面話被成度間當府官員貴館へ可差出旨

御來書ニハ候得共右ハ筆紙ニテ難盡義トモ不被存候
間最前申進候十八號十九號書翰ハ是非トモ御確答有
之度其上自然貴答中御質問可致義モ候ハ、御示命相
待候迄ニ無之當府官員出張可及御談判ト存候間前條
ノ御答急速有之度此段猶又申進候敬具

明治七年二月二十一日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國副領事シヨルジェスミツチエル貴下

第十四號

米國總領事ハ東京府ヨリ陸翰 七年十一月八日
以書狀致啓上候陳ハ東京居留地所有貴國人シエハ、
チヨルトニ氏地租千八百七十一年ヨリ當七十四年ニ
至ルマテ別紙勘定書ノ通り三ヶ年分相滞居尤シ、
一、マハルト氏御在任ノ項ヨリ屢々及御催促既ニ左氏

裁判ヲ以テ當人ハ、モ拂方下命有之自然仕拂方不行届
上ハ家作賣却為致候テモ可為御旨ヲモ被申越有之程
ノ義ハ候厥其後遷延今日ニ至リ尤其段ハ御先任シヨ
ルシエ又レツチヨル氏ハモ續々申進置候得共不相届
歲計上不都合ノ段申進モ無之ニ付早々御取立御差越
有之度且七十一年中ヨリノ淹滞ニ付地所證文面通り
過料利金等モ御取立御送致有之度此段得御意候敬具

明治七年十一月八日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國總領事トーマスビーボン貴下

別紙

勘定書

第壹番 三百七坪四合

三年分

地租金三百四十五圓八十二錢五厘

但千八百七十一年第七月一日ヨリ左金百
十四年六月三十日迄第三ヶ年分一ヶ年金百
十五円二十七銭五厘

第二番三百五拾八坪

三 地ヶ年分 租金四百二十四七十五銭

但前ヶ年分 租金百二十四円廿五銭

第二十一番二百七十七坪四合

三 地ヶ年分 租金三百二十二円七銭五厘

但前ヶ年分 租金百四円二銭五厘

第二十二番二百三十八坪九合

三 地ヶ年分 租金二百六十八円七十六銭二厘五毛

但前ヶ年分 租金八十九円五十八銭七厘五毛

合金千三百廿九円四拾壹銭二厘五毛 滞高

第十五号

米國總領事ヨリ東京府へ回答 廿年十一月十二

尊輔拜讀致候然レハ東京居留地第一第二第二十一第

二十二四區、地所地料デ工ノ工ハチヨルトル氏ヨ

リ取立御回可申旨御申越ニハ候得共當今左氏支那ハ

罷越苗守中ニ候間何レニモ歸次第右ノ趣可申聞候尤

東京居留、外國人共地料澄滞ノ趣意愚考は候ニ外國

人ハ總テ居留地内ハ住居可致著、然却テ多分ノ外國

人居留地外ニ住居被差許候向ニ有之右ニ竹築地ニ家

作等有之者ハ大ニ地位ノ價値ヲ失ヒ殊ニ地料モ甚高

直ニテ向後家作ハ勿論居留可致外國人燕之杯種々苦

狀有之哉ニ存候依之此致貴答迄如斯御坐候敬具

千八百七十四年第十一月十二日

台農總領事トーマスビアンダーレン

東京府知事大久保一翁貴下

第十六號

米國總領事ヨリ東京府へ陸翰 八年一月廿九日
去ル十一月十二日付ヲ以テ申上候ベチヨルトル氏滞
地租ニ付テハ先頃立氏支那ヨリ帰港ノ砌拙者へ申聞
候ニハ貴下ト居留地借地トニ約束ニ對シ何歎意存モ
有之趣ニ御坐候作併右ノ義未ク何共分明不相成依之
若シ貴下ヨリ立氏へ對シ夫等明了被成度候ハ立氏
地券寫並納期限記入ノ地料勘定書相添拙者へ御告知
可被成候依之此改申進候故具

千八百七十五年一月廿九日

米國總領事トーマス・ヒンズ

東京府知事大久保一翁貴下

第十七號

米國總領事へ東京府ヨリ回答 八年二月十二日
一月廿九日付ノ貴翰致被見候陳ハ貴國人ベエチヨル
トル所有東京居留地々料滞租勘定書並地所証文寫等
差進候様却來意ノ趣致義知則別紙ニ取調差進候間御
領收有之度且又立氏義右拂方ニ付テハ何歎異存モ可
有之様御申越ニハ候得共委細ハ去ル明治五壬申年八
月ヨリ客歲中既ニ八回書狀ヲ以テ申進且御先任以來
當府官員ヲ以テ屢得御意置次第ニ付貴下ニモ寫下御
了義御注意ノ義ニハ可有之候得共何レニモ早々拂方
相成候様御下命被下度存候此段御答傍得御意候敬具

明治八年二月十二日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國總領事トーマス・ヒンズ

追テ別紙勘定書ノ中ニハ利金算計熟之候

別紙

勘定書

一金百拾五圓廿七錢五厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百拾五圓廿七錢五厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百拾五圓廿七錢五厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百三拾四圓廿五錢

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百三拾四圓廿五錢

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百三拾四圓廿五錢

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百四圓貳錢五厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百四圓貳錢五厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金百四圓貳錢五厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金八拾九圓五拾八錢八厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

一金八拾九圓五拾八錢八厘

是月一八日居留地第一番二地料第六百三十七日一年一分

是ハ前同断千八百七十一年第七月一日ヨリ
是七十三年第六月三十日ヲ第一ヶ月分

一金八拾九両五拾八錢八厘

是ハ前同断千八百七十三年第七月一日ヨリ
是七十年前断第六月三十日ヲ第一ヶ月分

金千三百二拾九両四拾一錢四厘

第十八號

米國總領事ヨリ東京府へ來翰 八年二月十五日

本月十二日付第八號貴翰並べチアルドル氏所有東京
築地於テ第一第二第二十一第二十二等四區、地券及
右滞地料勘定書共正ニ落手致シ候依之右之趣在氏
ハ拙者ヨリ申遣置候就テハ右ノ廉若一週日ニ決定不
致候ハ、拙記名可相或適當、訴告又差進可申候其上
右訴文ヲ以テ在氏呼出シ、上國法ニ照準シ吟味可及
候間此段御表引可被下候歎具

千八百七十五年第二月十五日

米國總領事トマスヴァンブレン

東京府知事大久保一翁貴下

第十九號

米國總領事へ東京府ヨリ回答 八年七月廿九日

以書翰致啓上候然ハ貴國人ベチアルドル氏所有東京
居留地一番ヨリ二十二番地ニ跨リ候四區ノ地料滞、
分仕拂方、義追々申進候處右ハ在氏ハ御下命有之候
ニ付一週日間ニ御決定可相成若又難決候ハ、訴告狀
御差越可有之ニ付右記名、訴告狀ヲ以テ貴國ノ法ニ
從カニ御審判可有之段當二月十五日付ニ貴答之ヲ
リ然ルニ其後告書御差越々無之滞租ノ義モ依然、處
右ハ貴館へ御取立置相成候義ニ候哉在氏滞租ノ義ハ

曾テ申進候通り千八百七十一年以來ニ係リ御先任セ
バルト氏ノ節明治五年八月廿四日付ヨリ貴下御當任
迄既ニ十四迄御裁合ニモ及ヒ候末ノ義ニテ此上當府
ヨリ其筋一納方遷延及ヒ候テハ不都合不敷候間滞租
並利金共御取立相成居候義ニ候ハ、早々御差越相成
度若又本又、趣貴下御職内ニテ互氏義右様ノ等
閑及ヒ候テ督促スルノ筋合無之、義ニテ御着手ニ
相成敷候譯ニモ有之候哉其段確ト致兼知度候間否本
日ヨリ一週日間ニ御確答被下度此段尚得御意候敬具
明治八年七月廿九日 東京府知事大久保一翁

第二十號
米國總領事、東京府ヨリ姓翰 七年一月廿日
米利堅合衆國總領事 トーマスヒールバンブーレン貴下

以書狀致陪上候然ハ貴國人ウレ、ツキ並バラトホ
ト獨乙人バト、氏方割所有致居候東京居留地
十七番三百九十一坪二合ノ地所先般互所居住貴國人
リンフリン氏讓受候旨ニテ税關、申出有之尤モ右ノ
趣ハ兼テ貴下、モ申立置候旨右申聞、通り相違無之
候ハ、居留地所証文第三ヶ條ニ掲載有之候通り名前
認書等ノ手數ニ有之候間其段御報知有之度且又右地
租別紙勘定書、通り相滞居候ニ付早々御取立御差越
有之度存候敬具

明治七年一月二十日 東京府知事大久保一翁
米利堅合衆國副領事 ジョージエヌシツチエル 貴下

別紙
地租勘定書

拾七番地租

金百四拾六圓六十八錢七厘五毛

但千七百七十四年三月廿七日迄一千八百七十五年

第三拾壹號

米國總領事一東京府ヨリ注翰 一千八百七十四年十一月二日

以書狀致啓上候然ハ當居留地十七番ノ地所賣國入
不事エーエーイナクハソノ氏讓受候旨左氏申出ノ次第
有之右ノ村當十月申御先任ノヨリ以無又エーイナク
ハ氏ハ讓申進置候趣有之候為其後御來報無之然
ハ處右地所賣坪三百九十一坪二合ハ内ハ十八坪九合
ハ内ハ從前ノ通リ御先任ノヨリ以無又エーイナクハ
屬レ有之趣ハ村殘地三百二坪二合ハ内ハ九坪九合
此書所屬ニ可有之哉右讓受ノ年月並坪數等詳細兼知

致シ度且ツ又右地所賣九月中賣國入ブリジユトアル
モハハ氏ハ一轉賣致シ候趣ハ處ヨリソノ氏未ク地料納
方無之ハ付所所有中ハ地料ハ勿論海味ハ付過料利金等
御取立早々御差越有之度存候以取御意度知新候敬
具

明治七年十一月二日 東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國總領事トーマス・ハンフレン貴下

工ノホケル家屋及ハ地所ハ本年九月三日ダグリユ
正リテタムノソノ買受候元右ハ今日合衆國總領事
館於テ被讓渡候ニ付當時拙者ハ右ノ地主ニ御座候
千八百七十四年十月廿四日 フリチエーアルモン

東京府支廳御中

前記地所坪數以義賣地券對合セ候様ダハ相方以兼

候横濱亞米利加合衆國領事館ニ入籍致レ候左國人

ニ御坐候

第二十二號

米國總領事ヨリ東京府ニ回答 七年十一月三日

十一月二日付ノ貴翰落手披見致候陳ハ本年一月廿四日三百九十一坪ニ合シ地所ハトシ氏ヨリタムソン氏ハ讓渡相成尚本年九月三日タムソンヨリゴリシエトアルヤシ、讓渡相成申候タムソン所有中ノ地租併方不致段ハ不都合ニ候間地租勘定書差送可被下候過料、義ハゴリシエトアルヤシ於テ地方邊端ノ異無御坐候ニ付今人ヨリハ難取立候此段御報知此候敬具
千八百七十四年十一月三日
米國總領事トマスヒルズ

東京府知事大久保一翁貴下

第二十三號

米國總領事ヨリ東京府ニ來翰 八年一月廿九日

去十月二日付貴翰ヲ以テ御申越相成候タムソン氏ヨリアルヤシ氏ハ讓渡候築地居留地々區ノ地料取立方ノ義ニ就テハ合十一月三日付ヲ以テ申上候通リ右地料勘定書委細御差送相成候様致レ度左候ハ其勘定書ヲ以テ何レヨリ御方相成可申哉モ相成リ可申ト存候依之此段申進候敬具

千八百七十五年第一月二十九日

米國總領事トマスヒルズ

東京府知事大久保一翁貴下

本文勘定書送ノ方邊端相成候趣意

タムソン義七十四年一月中福逸人バトリヨリ

地所讓受候趣、處右バトリ所有ノ節則チ七
十三年七月一日ヨリタムソン引請候七十四
年六月ニ跨リ一ケ年分地料滞居候處右拂方
ハバトリ可相心得答ニ候得共五人義ハ既ニ
歸國ニモ有之兩人於チ地所讓與ノ際右拂方
ニ就テハ對談等モ可之ニ付タムソン相就
候上勘定書取調候積、處當時今人事改有之
領事館ニ拘留中ニテ放免相待居延引候義ニ
有之候

第二十四號

米國總領事ニ東京府ヨリ回答
八月二十四日
當一月廿九日付貴翰取扱見候然貴國人アル
氏當時所有東京居留地十七番地料昨明治七年六月三

十日ヨリ一ケ年分別紙勘定書ノ通リ金百十三円
五十三錢五厘相成候間右利金共早御取立御差越有
之度候且又在地區内最前貴國人少外一人
ノ分割所有ニ係リ候今年分ノ地料ハ在氏ヨリ昨年中
既ニ仕拂ニ付右ハ相除申候此段為念申進ノ置候右御
答旁得貴意候敬具

明治八年二月十四日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國總領事トーマス・ビーバンズ貴下

追テ別紙勘定書、内ニハ利金計算無之候
別紙

勘定書

第十七番三百九十一坪二合、内
三百二坪二合ニ付、但外八坪九合八勺、

七月一日ヨリ全七十四
年六月三十日ヲテ一ケ
キ氏外ハ米國人ヨリク
齊

此地料金百十三四三拾三錢三厘

是ハ千八百七十三年第七月一日ヨリ千八

百七十四年第六月三十日迄一ケ年分 但

金三坪ニ付 三十七錢五厘

第二十五條

米國總領事ヨリ東京府へ來翰 八年二月十五日

去ル十四日付貴翰並ツチエツトアルマン氏滞地料

合高金百十三四三十三錢拙者ヨリ取立可申旨御依頼

ノ勘定書共正ニ落手致候依之右、趣全氏ハ拙者ヨリ

申遣置候就テハ右ノ廉若レ一週日間ニ決定不致候ハ

、猶記名可相成適當、訴告文可差進候其右訴文ヲ以

テ全氏呼出、上國法ニ照準レ吟味可及候間此段御兼
引可被下候故具

千八百七十五年二月十五日

米國總領事タヌアンブレン

東京府知事大久保一翁貴下

第二十六條

米國總領事、東京府ヨリ姓翰 八年七月廿九日

以書翰致培上候然東京居留地十七番地所有、貴國

人ブリチエツトアルマン氏地料仕拂方ノ義勘定書相

副當二月申進候處其節一週日間ニ御決定可相成若又

難決候ハ、記名可致適當、訴告書御差越ノ上右ヲ以

テ貴國法律ニ照レ御審理可有之段御來意、處其後右

告書ヲモ御差越無之候ハ、アルマン氏ニ於テ貴諭ヲ

奉レ淹滞、地料並利金共既ニ貴下ニ御取立相成居候

義ニ候哉或ハ未タ御著手無之儀歟其後何分ノ御來信
モ無之在蘇今日ニ至リ不都合不敷既ニ右ノ義ニ就テ
ハ明治七年一月廿日第十二號付ヲ以テ御先任ジヨル
ジエ又ミツチエル氏ハモ御催促ニ及ヒ猶又左十一月
二日第八拾九號左八年二月十四日第九號付等ヲ以テ
全様ノ義申進置候處今以テ地料拂方無之右ハ貴下御
職掌内ニテ左氏ノ等閑ヲ督促スル筋合無之御著手ニ
相成兼候譯ニモ有之候哉其段取ト致兼知度候間否本
日ヨリ一週日間ニ御答被下度此段尚得貴意候敬具
明治八年七月廿九日
東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國總領事トーマスビーバンブレン貴下

第二十七號

米國總領事ヨリ東京府ニ回答 八年七月三十日

カビテンバチャルトル及フリゲツトアルマンニ對シ
地料拂方ノ義ニ付御申越、本月廿九日付貴翰ニ通夫
カ落手致被見候然ハ先般東京外國人居留地ニ區所有
ノ者連署ニテ地料拂方相拒ニ候趣意モ有之因テ右地
料或ハ其何部分欲ヲ免除有之様日本政府ハ請求ノ趣
記載ノ願書差出候ニ付則チ去ル三月四日右願書相添
我國公使レインエービンハム氏ハ其改申送リ左氏ヨ
リ日本政府外務省ハ回送相成度旨申立置候尤右ノ趣
ハ其節貴下ハ申進置候心得ニ候處帳簿取調候得ハ全
ク御報告落ニ付御宥免可被下候尚又本日右ノ義ニ付
公使ハ可申送候間回答有之次第早速御再報及ヒ可申
候依之此段申進候敬具

千八百七十五年第七月三十日

合衆國總領事トーマスビーバンブレン

東京府知事大久保一翁貴下

第二十八號

米國總領事一東京府ヨリ送翰 八年十月二日
以書翰致啓上候陳ハ去ル七月三十日付ヲ以テ貴國人
ハチヤルドル及アルマン兩氏東京居留地々料淹滞ノ
義ニ付テハ所有主ヨリ拂方相拒、候趣意速署ヲ以テ
貴下ニ申出候。付右書面貴公使ヨリ我外務省ニ御廻
送可相成様御申立置候間猶否御再報可有之旨御來示
ノ取干今御報告無之當府ニ於テモ數日其儘ニ難差置
候間御返翰、趣外務省ニ申立置候此段為御兼知得貴
意度如候敬具

明治八年十月二日

東京府知事大久保一翁

米利堅合衆國總領事トマスビーバンブレン

第廿九號

米國總領事ヨリ東京府ニ回答 八年十月九日
本月二日付貴翰拜見致レ候然ハ築地々料取立、義ニ
付御申越、趣致兼知候然ルニ右ハ兼テ該地居留外國
人共ヨリ請願、義日本政府於テ何分、御決定相成候
上ハ夫々處置ニ可致候得共夫迄ハ拙者於テ米國人共
地料督責、儀難相成候間此段申上候敬具

千八百七十五年十月九日

米國總領事トマスビーバンブレン

東京府知事大久保一翁貴下

外務省一東京府ヨリ上申 八年九月三十日

東京居留地所有米國人、内別紙掲名ノ者去ル明治四
年以來地料追々相滞ニ付地料並利金仕拂方互國領事
ニ照會、末公使ニ申立ッル趣ニテ回答、越ハ何レニ

モ公使ヨリ御省へ可申出來意ニテ此上ハ當府限ノ
引合ニテハ難行届候間於御省左公使一御談判相成度
因テ領事ノ往復書類並雜租ノ人名其外滞金高書付
共相添此段上申ス

別紙

勘定書

米國人ジエムバチヤトル

居留地第一番ヨリ廿一廿二番へ相跨候四區ノ地
所有入地料滞高

合金二千二百十五圓六十九錢

内譯

金五百七十六圓三十七錢五厘

是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料
是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料
是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料
是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料

但 壹ヶ年金百十五圓二十七錢五厘

金六百七拾一圓二十五錢

是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料

但 壹ヶ年金百三十四圓二十五錢

金五百二拾四拾二錢五厘

是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料

但 壹ヶ年金百四圓二錢五厘

金四百四拾七圓九十四錢

是ハ居留地第一番ヨリ廿一廿二番ノ地料

但 壹ヶ年金八十九圓五十八錢八厘

全園人ブリジユトアルマン

居留地十七番所有入地料滞高

合金四百六圓七十三錢三厘

内譯

金百十三四三拾五錢三厘

是ハ八坪居留地合八十七番最前全九十一坪ルニ合ツ、キ外ハ
一人分除キ所有坪ニテ百人ニリ合地ニ料拂ア濟ルニ付
七十有三分第七月別ヨリ先十年分

但ニ一付年前先断

金百四拾六四七十錢

是ハ、在付断坪ルニ、百九十一坪人分割、地ノ料、千ハ
一百七十リ四年第七月

金百四十六四七拾錢

是ハ、前一年断ヨリ、八月十五

外務省ヨリ東京府へ回答 八年十月三十日

九月三十日付申立相成候米國人地料拂方滞滯、裁外

務卿代理森火輔ヨリ全國公使へ別紙甲辨、通リ掛合
左公使ヨリ乙号、通リ回答有之就テハ御廳ヨリ全國
總領事へ告訴相成然ルヘ因テ別紙往復書翰 相添
此段申進ス

甲辨

米國公使へ外務省ヨリ照會 八年十月八日

以手紙致答上候然ハ東京居留地ニ住居有之貴國人
ノ内兩名明治四年以來右所有地料拂方延滞候ニ付
東京府知事ヨリ貴國領事へ屢々及督促候得共今以
テ仕辨無之ヨリ尚此程掛合及ヒ候處右一件ニ付關
下ニ申立相成候筋有之旨貴國領事ワシビユレン氏ヨ
リ回答有之候旨東京府ヨリ申越候右ハ何等ノ次第
ニ候哉委細速御報示有之度此段得貴意候敬具

寺島外務卿代理

明治八年十月八日

森 外務少輔

米國駐合衆國公使ジョシエビンガム閣下

乙 弥

米國公使ヨリ外務省へ回答 八年十月十五日

本月八日付貴翰ヲ以テ東京府下外國人居留地住我
合衆國人、内千八百七十一年以來居留地ノ地稅延
帶一件ニ付御來示、趣義知致レ候然ル處築地ニテ
地所ノ有シ罷在候合衆國人西三名ヨリ拙者へ致告
斷續ニ五人共ノ地所ハ府下居留地外ニ居住致居候
外國人ノ課稅相成候ヨリ甚ク高稅ヲ課セラレ候趣
ニテ貴受約定、箇條ニ違背レ不公平ナル旨申立候
古外國人等ハ買受約定、箇條ニ違背レ居留地外ニ

地所ヲ有シ營業差許レ有之候由ニ候就テハ右告訴、
趣若シ實事ニ有之候ハ、右地稅、義ヲ程能ク落著セ
レメントスルニハ築地、地所或稅相成候方公平、義
ト存候然レトマ此迄、通り右拂方御主張可相成義ニ
候ハ、東京府ヨリ其旨本式ニテ合衆國領事へ告訴相
成候得ハ、全領事ニ於テ右一件取紀候上件々公平ニ裁
決可致候下併程ヨリ落著セシムル事双方、満足スル
所ニ可有之數ト存候此段回答旁得貴意候敬具

千八百七十五年十月十五日

東京合衆國公使館ジョシエビンガム

外務卿寺島宗則閣下

米國總領事、東京府ヨリ謹翰 八年十二月廿五

以書狀致格上候陳ハ東京居留地所有貴國人ノ内地料

淹滞ノ天ノ御督促方ノ義ニ付テハ屢御引合ノ末外務
省ヨリ貴公使ノ御照會ニ及ビ候處右ノ邊ニ當府ヨリ
訴告式ヲ以テ貴下ノ告訴候上ハ御受理可相成旨貴公
使ヨリ外務省ノ御回報有之候旨ニ候間則チ當府委員
ノ代理申付別紙訴狀兩通差進候間御審判有之度存候
右得貴意度如此候敬具

明治八年十二月廿五日

東京府權知事神本正隆

朱利堅合衆國總領事トーマスビーハンブレン貴下

別紙

地料滞金訴告

東京府權知事神本正隆代理

全府中属

原告

朱 沼 常 一

東京明石町住

朱利堅合衆國商

被告

ジエム、ハツチヨルトル

右被告ノ貸渡有之東京明石町居留地第一第二番ヨ
リ第二十一二十二番ノ差跨候區、地所地料ノ義
ハ我外務卿ト各國公使ト取結ヒタル居留地規則ニ
添エル競賣ノ條第五條ニ隨ヒ被告ノ貸シ有之地所
証文第一項ノ掲載有之通リ一ヶ年分地料毎年前金
ヲ以テ可相納處千八百七十一年第七月一日ヨリ左
七十六年第六月三十日迄五ヶ年分滞相成候ニ付右
証文第三項ニ據リ過料トシテ地租高ノ二分トモ別
紙勘定書ノ通リ合蓋三千五百円八拾錢一厘東京府
ノ相納候様御審理相願候也

明治八年十二月二十五日

赤 沼 常 一

米利堅合衆國總領事 トーマス・ビーハンブレン 貴下

地所帯金勘定書

壹番地

一金五百七十六圓三十七錢五厘

千八百七十一年第七月一日ヨリ五ヶ年分地料滞高
至七十六年第六月三十日マテ

一金三百三十四圓三十錢

前全半全月 地分 地料 又滞二付一ヶ年 過右地
料高 百カニ 証 約ニ 通リ 過料

合金九百十四圓六十七錢五厘

此譯

金百十五圓廿七錢五厘

千八百七十一年第七月一日ヨリ一ヶ年分地料滞高

此過料金百廿二圓拾九錢二厘

前全半全月ヨリ 四ヶ年ト五ヶ年
十五年 第十一月ヨリ 三十日マテ 但一ヶ月

金 貳圓 三十錢

金百十五圓廿七錢五厘

千八百七十二年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金九拾四圓五十二錢六厘

前五年 第十一月ヨリ 迄 三ヶ年ト五ヶ月分

金百十五圓廿七錢五厘

千八百七十三年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金六十六圓八十六錢

前五年 第十一月ヨリ 迄 二ヶ年ト五ヶ月分

金百十五圓廿七錢五厘

千八百七十四年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金三十九圓拾九錢四厘

前五年全月ヨリ七十一ヶ年ト五ヶ月分
五年第十一月廿七日迄

金百十五円廿七銭五厘

千八百七十五年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金十一円五拾二銭八厘

前五年全月ヨリ三十一ヶ年ト五ヶ月分
第十一月三十日迄

二番地

一金六百七十毫円二十五銭

千八百七十六年第六月三十一日ヨリ五ヶ年分 地料滞高

一金三百八十九円三十二銭五厘

前五年全月ヨリ二分二厘地料滞高
又滞約二ヶ月ト一ヶ月ト過右

料

合金千六十四円五十七銭五厘

此譯

金百三十四円二十五銭

千八百七十一年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金百四十三円三十銭五厘

前五年全月ヨリ四月ヨリ七十五ヶ年分
第十一月三十一日迄

八月金二円六十
八銭五厘

金百三十四円二十五銭

千八百七十二年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金百拾四八銭五厘

前五年全月ヨリ七月迄
三ヶ年ト五ヶ月分

金百三十四円廿五銭

千八百七十三年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金七十七円八十六銭五厘

前五年全月ヨリ七月迄
五ヶ年第十一月廿七日迄
二十ヶ年ト五ヶ月分

金百三十四四廿五錢

千八百七十四年第七月一日ヨリ一年分 地料滞高

此過料金四十五四六十四錢五厘

前五年十一月ヨリ七十三ヶ年ト五ヶ月分

金百三十四四二十五錢

千八百七十五年第七月一日ヨリ一年分 地料滞高

此過料金十三四四十二錢五厘

前六年三月ヨリ五年 五ヶ月分

二十一番

一金五百二十四拾貳錢五厘

千八百七十一年第七月一日ヨリ五年分 地料滞高

一金三百一四六十七錢五厘

前五年五月分 地料滞高

合金八百二十一四八拾錢

此譯

金百四四二錢五厘

千八百七十一年第七月一日ヨリ一年分 地料滞高

此過料金百十四二十六錢七厘

前五年四月ヨリ七十五年分 十一月三

錢金二四八

金百四四二錢五厘

千八百七十二年第七月一日ヨリ一年分 地料滞高

此過料金八拾五四三十錢一厘

前五年十一月ヨリ七十三ヶ年ト五ヶ月分

金百四四二錢五厘

千八百七十三年第一月一日ヨリ一年分 地料滞高

此過料金六十四三十三錢五厘

前五年五月ヨリ七十二年ト五ヶ月分

金百四十四錢五厘

千八百七十四年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金三十五四三十六錢九厘

前五年五月ヨリ七十一年ト五ヶ月分

金百四十四錢五厘

千八百七十五年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金十四四拾錢三厘

前五年五月ヨリ七十二年ト五ヶ月分

二十三番

一金四百四十七四九十四錢

千八百七十六年第六月三十日ヨリ五ヶ年分 地料滞高

一金二百五十九四八十一錢一厘

前五年五月ヨリ七十二年ト五ヶ月分 地料滞高

合金七百七四七十五錢一厘

此譯

金八十九四五十八錢八厘

千八百七十一年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金九十四四九十六錢五厘

前五年五月ヨリ七十二年ト五ヶ月分 地料滞高

金一四七十九

金八十九四五十八錢八厘

千八百七十二年第七月一日ヨリ一ヶ年分 地料滞高

此過料金七十三四四十六錢四厘

前五年五月ヨリ七十三年ト五ヶ月分

金 八十九圓五十八錢八厘

千八百七十三年第七月一日ヨリ一ヶ年分地料滞高

此過料金五十一圓九十六錢貳厘

前在年五月ヨリ七十二年ト五ヶ月分

金 八十九圓五十八錢八厘

千八百七十四年第七月一日ヨリ一ヶ年分地料滞高

此過料金三十四圓四拾六錢一厘

前在年五月ヨリ七十一年ト五ヶ月分

金 八十九圓五十八錢八厘

千八百七十五年第七月一日ヨリ一ヶ年分地料滞高

此過料金八圓九十五錢九厘

前在年五月ヨリ七十五年ト五ヶ月分

合金二千二百十五圓六十九錢

四區分地料

合金千二百八十五圓十一錢一厘

五所過料

總計金三千五百四十八錢壹厘

別紙

地料滞金訴告

東京府權知事楠本正隆代理

同府中屬

原告

赤沼常一

東京明石町住

米利堅合衆國商

被告

フリジコトアルマン

石報告、貸渡有之東京明石町居留地第十七番地料

地所証文約束、通り一ヶ年分ツ、毎年前金ヲ以テ

可相納處千八百七十三年第七月ヨリ滞相成候ニ付

右証又第三項ニ從ヒ過料トシテ地租金ノ二分トモ別
紙勘定書面、通り合金五百三十七圓一錢五厘東京府
一相納候様御審理相願候也

明治八年十二月廿五日

赤 沼 常 一

米利堅合衆國總領事トマスビーバンブレン殿

地料滞金勘定

拾七番地

一金四百六圓七十三錢三厘

千八百七十三年第七月一日ヨリ三筆分 地料滞高
五十七六年第六月六日ヨリ三十日ヨリ

一金百三十四圓二十八錢二厘

前左年左月地方地料滞
料高百分左月地方地料滞
約ニ付一ヶ月過右料

合金五百三十七圓壹錢五厘

此譯

金百十三圓三十三錢三厘

此地料内金總高三十一圓三十三錢六厘四分拾
割所残有左國人分八百七十三筆分
一各地料滞高一ヶ年

此過料金六十五圓七十三錢四厘

前左年左月ヨリ五ヶ月分但左十一月金
十日迄二ヶ年ヨリ五ヶ月分但左十一月金
六二圓七廿六錢

金百四拾六圓七十錢

千八百七十四年第七月一日ヨリ一ヶ年分地料滞高

此過料金四拾九圓八十七錢八厘

前左年左月ヨリ七十五ヶ月分但左十一月
十日迄一ヶ年ヨリ七十五ヶ月分但左十一月
三金二圓九厘十

金百四拾六圓七十錢

千八百七十五年第七月一日ヨリ一ヶ年分地料帶高

此過料金拾四圓六十七錢

前五年第一月ヨリ一ヶ年分

米國總領事ヨリ東京府へ來翰 九年一月廿二日

去ル十二月廿五日付貴翰致披見候然ハ東京外國人居
留地住カピテンゼーエム、バチヤルトル及グリニユト
アルマノ所有地々料ノ義ニ付右兩人、掛ル訴訟御差
越相成致落手候然ルニ本件是迄著手不致義ハ兼テ御
先任、モ申進置候通り地料ノ何分歟ヲ免除有之度旨
先般彼等ヨリ貴政府へ及出頭候義モ有之右ハ彼等於
テ地料減少方充分請求可致條理有之趣ニ付貴政府於
テ出頭、趣御聞届、有無御決定燕之上ハ右ニ拘ラ
ス裁判相聞可申候依テ去當廳へ差出ス至當ノ願書ハ

悉遂吟味判決可致義拙者、職務ニ有之候間我國法令
ト適令ニ依リ取設ケタル定規ニ照シ處分可致候就テ
ハ裁判未著手前右入費証據金トレテ一廉ニツキ金五
十弗宛都合百弗御差出有之度些末、訴訟ト雖モ証據
金ノ義ハ二十弗可相預節ニ有之殊ニ論議ヲ可要モノ
、如キハ裁判入費モ巨大ニ有之候故右ノ金額ヲ要ス
ルモ其入費、高ニ可相充義ニ付本件訴訟ニ廉、對シ
証據金トレテ壹百弗御差出相成候ハ、落手ノ上夫々
呼出相懸裁判時ヨリ決定、上貴下、可及御報告候敬
具

千八百七十六年第一月廿二日

合衆國總領事トーマスビーギン

東京府權知事榎本正隆殿

米國總領事一東京府ヨリ回答 九年三月六日

當一月廿二日付ノ貴輔致披見候陳レハ貴國人シエロ
バチヤルトル及グリレエーアルマン所有東京居留地
々料淹滞ニ付當府官員ヲ以テ原告代理ニ相立右西氏
被告候處訴訟入費証狀金一廉ニ付五幕宛都合百弗前
以テ貴館へ差出候ハ、御受理可相成旨御来示、趣致
兼知因テ右金額百弗令致御送致候間御領收ノ証書御
差越有之度存候此段及御回答候也

明治九年三月六日

東京府權知事柳本正隆

米利堅合衆國總領事トーマスビーバングレン貴下

グリレユリトアルマン及ビーエム、バチヤルトル一係
ル訴訟証狀金トレテ一百弗東京府ヨリ正ニ受領致シ
候也

千八百七十六年三月六日

合衆國總領事館ニテ

エイチグブリエーデンソン

○明治八年三月廿七日 外國人居留地區入費ハ定額常
費居留地諸費ノ中ヨリ支辨スヘシ若シ不足ノ節ハ外
大科目ヨリ流用ノ目途ヲ立テ大藏省へ可申出旨ノ達
ス

東京府上申 九年二月七日

明治八年七月ヨリ十二月マテ外國人居留地區入費
別紙内譯ノ通り金十六圓七十錢至急御下渡アリタレ
指令 三月廿七日

書面ノ趣ハ定額常費居留地諸費ノ内ヲ以テ支辨可致
若シ不足候節ハ外大科目ヨリ流用ノ目途相立テ大藏

省一申出、

明治八年四月二十二日 築地居留地明石町第八番所
有、白耳義國領事エルストロース地料淹滞セシメ
以テ該政府一告訴セシム

東京府上申 九年三月廿七日

白耳義國人エルストロース所有居留地第八番地々料
千八百七十二年第七月分ヨリ淹滞相成候ニ付五人飯
國中跡引受人左國副領事ハールロレ、對シ明治五年
八月ヨリ數回督促、末遂ニ外務省ヨリ全國公使、照
會漸ク昨八年一月中ニ至リ受取方ノ運ヒニ至リ徵收
ノ為メ屬吏ヲ出張セシメ其際地事ニ托シ拂方イクサ
サ、ルニ付尚ホ外務省一申立左省ヨリ再應公使一督

促相成候得共本人在國中ニテ到底公使、處方ニ難及
趣因テ右事件ハ小官ヨリ佛國駐劄臨時代理公使中野
建明一依托シ白耳義國裁判所一出訴ノ運ヒ取計フニ
ク旨左省ヨリ差圖有之前候、通取計フタリ尤右ニ関
スル一切、費用仕拂方ニ付別紙之通全省ヨリ來示有
之ニ付為念開申セリ

居留地第八番地料並過料高共白耳義國裁判所一
訴告相成候年月、方勘定書

一金百八十四圓五拾錢 千八百七十二年第七月ヨリ地料高

過料金百六十二圓三十六錢 千八百七十二年第七月一日迄

四十四ヶ月ニ付金三四六十九錢

小以金三百四十六圓八十六錢

一金百八十四圓五十錢 千八百七十三年第七月一日ヨリ地料高

過料金百八十四八錢

一千八百七十三年第七月

九二月

租三ヶ月、金三四、六十九錢

小以金三百二四五十八錢

一金百八十四四五十錢

リ千八百七十五年四月第六月三十一日迄
地一ヶ年高

過料金七十三四八十錢

一千八百七十四年第六月第九日迄
租月九ヶ月九日マテ前迄

小以金二百五十八四三十錢

一金百八十四四五十錢

リ千八百七十六年第五年第六月三十一日迄
地一ヶ年高

過料金二十九四五十二錢

一千八百七十五年第六年七月一日迄
租二月廿九日マテ前迄

小以金二百拾四四二錢

總計金千二百二十一兩七拾六錢

東京府ヨリ回答 照會書略 二十三日

白耳義國人エルストロリス淹滞地料取立方外務省ヲ
經左人本國裁判所、告訴セ、旨開申候處御參照、夕
メ互國副領事及ヒ外務省往復シ、他関涉、書類等差
レ進スベク旨領美別紙書類進達ス

第一聯

白耳義國領事、東京府ヨリ往翰 五年八月廿四日

以手紙致陪上候然ハエルストロリス氏所有東京居
留地第八番、地所在氏留守中ハ貴下御引受、旨曾
テ我官員、御談話、次第有之候、付右地租千八
百七十二年第七月一日ヨリ五七十三年第六月三十

日、テ一ヶ年分金百八十兩二方地券約定、通リ運
上所、御差出有之度此段可得御意如斯御坐候以上
明治五年八月廿四日
東京府知事大久保一翁

白耳義國領事ホールロン貴下

第二號

白耳義國領事、東京府ヨリ往翰六年四月廿二
以書狀致啓上候然ハ、エルストロース氏留守中貴下
御引受相成居候東京居留地第八番四百九十二坪ノ
地租千八百七十二年第七月一日ヨリ左七十三年第
六月三十日迄一ヶ年分金百八十四圓五拾錢御仕拂
方、義昨年九月中申進候處其後御差越ハ、勿論爲何
ノ御回答モ無之右ハ、昨年第七月一日ニ御仕拂可相
成筈ノ心追々遷延及ヒ候間地券規定、通リ地租ハ

勿論二分ノ過料並ニ利益トモ早々當税關一御細方
有之度存候敬具

明治六年四月廿二日

東京府知事大久保一翁

白耳義國領事ホールロン貴下

第三號

白耳義國副領事ヨリ東京府一往翰六年四月三
以書狀致啓上候然ハ、明治六年四月廿二日付テ以テ
御差越相成候貴籍落手仕候諸私義東京居留地内地
券規定、通リ難取行事情謹テ左ニ申上候
貴國政府東京ニ於テ地所御賣渡シ相成候節居留地
外、外國人住居、義御免許可成御所存ニ有之候
哉或ハ賣地條約面ニ右、義明白御約定相成居候哉
私ニ於テハ此義一向信用難仕候然ルニ近來日毎ニ

外國人ニシテ東京中央一住居ヲ撰キ候者相見一申
候尤貴政府一御備入相成居候者ハ格別此地閣下御
兼諾ニテ居留地外一住居相定候者有之方姓名等モ
委シク兼知仕居候總テ條約ハ双方嚴密ニ其ヶ條ヲ
留ヲイテコソ正當ト奉存候然ルニ貴政府ニ於テハ
賣地條約ヶ條ノ根本ニ御注意ナクシテ陰ニ外國人
ニ東京中央一住居ノ義御聞届相成候事ハ申上兼候
得共居留地ノ趣意ニ相悖リ且ツ築地ニ於テ地所持
主ノ爲メニ大ニ損害ニモ可相成奉存並前又陳述ノ
事實ハ如何ナル譯ニ御坐候哉御回答兼リ度其上ニ
テ私地租等ハ上納可仕候且ツ東京ニ於テ以前地面
御賣渡相成候節ノ規則等モ兼知仕リ度當領事館記
録貯所ハ右ノ規定無之候間依テ此改奉懇願候敬

具

一千八百七十三年四月三十日

白耳義國副領事エムールロソ

東京府知事大久保一翁閣下

第四拜

白耳義國代辦領事一東京府ヨリ回答十六年五月

四月三十日附御書翰落手致シ候然ハ明治六年四月
廿二日付ヲ以テ東京居留地賣下御所有地々租滞高
御拂ノ義及御催促候處我國傭人ニ無之外國人我許
可ヲ得テ居留地外一出店ヲヨセ候ニ付地區所持ノ
爲ニハ大ニ妨碍トモ相成加之元來開市場規則ニモ
相悖リ候義ニ付旁以テ事實御兼知ノ上御納租被成
度等屢々御回答ノ趣致領諾候然ル處開市場規則違

背ハ勿論東京中央、地等、無謂外國人居住免許等
致シ候義ハ毛頭無之是等ハ自然御傳聞、謬誤ニ出
候義ハ無之哉御來示、如キハ何分難致了解候因テ
情ヲ參考致シ候処御義知、通リ各歳二月下旬大火
、節築地外國人相對借家、場所悉皆延焼致シ是カ
爲メ火災ニ罹リ候外國人差向居所無之候ニ付其段
各國御左條ニ申進相對借家、場所取廣評議中限
月、以テ一時開市場外、立退許容致シ候得共永住
、義ニハ無之即今ハ既ニ開市場内、悉々帰宅致シ
最早開市場外一散住ハ勿論商業等致シ居候者無之
候愚探スルニ前條、趣ヲ以テ御指目相成候義、被
考候且又居留地競賣規則其領事館ニ御記録無之候
ニ付御依頼、通リ別紙一葉呈贈致シ候就テハ御質

問、件々及御報告候間前條四月二十二日付ヲ以テ
申進置候地租其外違ニ御差出有之度此致御回答及
ニ候敬具

明治六年五月十三日

東京府知事大久保一翁

白耳義國代辦領事工、ルロソ貴下

第五聯

白耳義國代辦領事ヨリ東京府、來翰廿九年五月

明治六年五月十三日付御書翰致落手候然ハ其節御
差贈相成候居留地競賣規則按仕候處右規則中ニハ
外國人民ノ築地居留地ヨリ他所、住居不可致、云
々相見申候然ルニ四月三十日付ヲ以テ申上候通リ
現今東京中央、住居致シ居候者數多有之申候各其
領事ヨリ許容ヲ得テ居留地内、住居ス、キ外國人

ヲ貴政府ニテハ條約ニ御依頼ナリシテ居留地外ニ
住居商買等御許容相成候義ハ貴下ニ篤御兼知可有
之答ノ趣過日ノ御贈書ニ東京中央ノ地等ノ無謂外
國人居留御免許等致候義ハ毛頭無之トノ御回答ハ
一向難致會得候又外國人居留地外ニ住居ニキ趣
意アリヤ或ハ其無謂ト申義ハ更ニ受取兼申候且居
留地規定中ニモ右等ノ箇條相見一不申致ニ外國人
ヲレテ居留地外ニ住居御許容相成候ハ約定ニ御違
背被成候義ニ被存候兼テヨリ何處ノ住居御許容
可被成ノ權利御所有相成居候半ハ東京居留地内ニ
地處買入候モ、多分ハ有之間敷被考候貴政府最前
東京ニ於テ地所御賣渡相成左處在留外國人ノ爲メ
居留地御取致有之ニ依テ高價ニテ右地區買請且ツ

其地租等モ上納ノ義御任意仕候得共前々陳述仕候
通、地所一居住ノ義御許容有之ニ付テハ地區所持
ノ者共右高價ノ地租ハ上納可仕、道理無之ト愚考
仕候且又即今東京中ニ居住致シ居候モ、姓名別
紙封入御覽申候右等ノ外尚ホ數名有之申候且其住
居等モ巨細兼知仕居候以前四月三十日付ヲ以テ申
進候如ク條約御違背ナリ御取行ヒ有之度左スレハ
拙者ニオイトモ萬事條約通リ相守リ可申候得トモ
貴下ニ於テ居留地ノ文字ハ有名無實ノ如ク被思召
候故拙者モ亦テ地租仕拂ノ義モ全様ニ相心得候ハ
拙者、職掌ト奉存候敬具

横濱ニ於テ白耳義國副領事

東京ニ於テ全國代辦領事

千八百七十三年五月廿九日

エ. ロールロン

東京府知事大久保一翁貴下

ロールロンヨリ差越候名前書

セボエー

ロニイロ

ローガ

ロマイン

シエフリエー

ウエセル

オートル

シコルル

ホフマン

第六節

白耳義國代辦領事、東京府ヨリ回答十六年七月

五月廿九日付、御書状致被見候然ハ東京居留地外

於テ外國人ニ住居商賣差許規則面ニモ違背致シ候

ニ付地租仕拂方モ右ニ準シ全様御心得被成候旨等

續々御回答、趣了諾致シ候就テハ居留地規則違背

ハ勿論無謂居留地外於テ外國人ニ住居差許候義ハ

無之曾テ申進候通リ我客歳二月中火災ニ罹リ候者

ノミ一時府下ニ立退住居許容致候、トモ猶外務省

ヨリ各國公使、御商議ノ上新富町八丁堀、方相對

借家取廣候ニ付右火災ニ罹リ府下ニ散住、御配下

人民モ有之候半ハ我十一月廿日ヨリ向三十日、間

ニ是迄、借家引辨開市場内ハ引移リ候様御下命有

之度旨十一月十七日付ヲ以テ貴下及ヒ各國御僚

一モ申進其後追々開市場ノ歸住致シ最早無謂外國
人開市場外ノ住居ノ者無之、存候處今般御登ノ名
前書御差越致義知候依テ寫ト取調候處御差越ノ名
前中葡國領事ロレイ口氏義ハ曾テ開市場内ノ引移
方相違置候間不日被引移候事ト存候且ロイ口氏モ
是又昨年火災ニ罹リ候後英人ブラク氏五社ニテ新
聞局相設我政府布告書刊行等申付置候ニ付當方開
市場外住居一時特許致シ置其餘ビボエー氏義ハ文
部省雇獨乙醫官方ニ一時旅官相成居候得共即今ハ
横濱ノ罹傷ヨロマインシエフ、リエー義ハ居所探
索中ニテ其餘ウエセル、ミエレール、ホフマン氏等ハ
我政府或ハ和學校ノ相備候者ニテ其筋免許ヲ得住
居致シ候義ニテ決シテ商買ノ為メニハ無之此致御

了鮮有之度且又公私傭ト外國人ノ義ハ開市規則面
ニハ掲載無之トモ傭中ハ則チ我國人ノ様使役ヲモ
致ス候義ニ付其傭主ノ權利ヲ以テ便利ノ地ノ差置
候ノ差許候事ニ有之候尤此義ニ付尚御異論モ有之
候半、別段御申立可有之地租ノ義ハ地券面明了記
載ノ規則モ有之義ニ付是迄相帶候地租並利方共早
々御差出可被成候此致回答可得御意如斯御坐候故
具

明治六年七月十七日

東京府知事大久保一翁

白耳義國代辦領事エムールロノ貴下

第七號

白耳義國領事ノ東京府ヨリ陸翰
六年十二月十日
以書狀致啓上候然ハ東京居留地々租滞金御拂方ノ

義ニ付昨年中ヨリ屢々御催促才ヨク候處先般續々
 御申越ニ付七月十七日付ヲ以テ詳細其答申進事情
 委細御了解ノ義、存候然ルル其後月日ヲ經候得共
 今以右滞金御差出燕之追々遷延及ヒ其筋一納方ニ
 差支候間地租滞金高三百六十九圓、外ニ証久規
 定ノ通、二分ノ過料金等御取揃當月十五日迄ニ御
 差出有之度存候右、否至急御回答可被下候敬具

明治六年十二月十日

東京府知事大久保一翁

白甘義國領事イ、ム、ル、ロ、ン、貴下

別紙

地租勘定書

第八番坪數四百九十二坪

此地租

金百八十四圓五十錢

千八百七十三年七月一日ヨリ
 千八百七十三年六月廿一日迄一ト年分

左折

千八百七十三年七月一日ヨリ
 千八百七十四年六月三十日マテ一
 ト年分當七月可納分

合金三百六拾九圓

第八号

自手取國副領事日リ東京府へ回答 六年十二月十五日

以書狀致啓上様陳知東京居留地八番地所、義ニ付

ヲハ昨年以來數回云々申上レ處今度是迄往復致シ

候書翰大畧致シ更ニ申上候地租松方遷延相成候處

謂ハ築地外ハ外國人住居ノ義御許容相成候故斯ク

延列ニテ申候情貴國政府ヨリ地區買入候者ニ

對シ御取結相成候條約面ニ依レハ外國人ハ必ラズ

居留地内ハ必ラズ住居可致義明瞭ニ約定有之候條約

ハ双方トモ契約セシテ奈ク執行ヲ以テ其

法ニ適候義ト被存候然レニ居留地外ニ外國人ノ居

住ヲ陰ニ免許被致候故貴政府ニテハ最前ノ約定相

察棄相成候義致シ忌按罷在候此段義知致シ度候前

文ノ如ク御處置有之ニヨリ居留地ノ為メニ甚ク妨
碍ニ相成且ソ外ノ居條被差許候ニ付地區所持ノ者
トモ其地租相納候ハ大ニ損失ノ如ク相考申候此儀
篤ク御注意有之度候御申越ノ通リ外國人共ク築地
居留地ニ歸住致シ候事ハ私ニ於テモ早ク租相納
可申候若シ州ノ外ニ此儀ニ付テハ上官ノ指圖ヨリ
外ニ相受ケ不申候此段得貴意度如斯ニ御座候敬具
一千八百七十三年十月十三日
白耳義元領事官
東京知事大久保一翁貴下
外務省ニ東京府上申書附十二月
白耳義元領事官
地租明治五年以來不納ニ付縷々督促ノ末猶又本月

十日付申付權促申遣シ候處由答ノ主意以前ト全シ
ク加之上官ノ命無之止ハ私方不致趣申越候此上
談判ニ涉ル旨書ニ時日ヲ費セ候ノ事ナシハ且佛
蘭西米利堅荷蘭人共有ノ地所ニ有テ標準トシ納方
米致独立人々モ亦各國人不納トシ以テ獨國人ノ可相
納筋無之旨申立テ都合不致ニ付即今其國領事ノ概
合申付候得共前件白耳義元領事官ニ於テ最早
行届難ク候間御者ヨリ右公使ニ申談相我度依之
最前申付ノ往復書翰類和横文共相添此段止申ス
租稅案ニ東京府ヨリ通知 六年十二月 日
東京開市場居留地白耳義元領事官
別紙ノ通リ外務省ニ申陳セリ此段為念開申ス

白耳義國辦理公使、外務省ヨリ往翰
以書翰致路上候然、貴國先任領事
所有、東京居留地内第八番地、
副領事、
未全所地所滞納、付屢々東京府ヨリ
ハ及掛合候處、全氏和シハ居留地外居住ノ外國人モ
有之右之某儘差置候ハ東京府於内居留地規則ニ違
背大ニ処置、付地租ニ約定通り難被、
人民ノ備人等、
住居不差許義、
方々一部則築地居留地等内丁ノ災ニ罹リ、

政府特別ノ許可ヲ以テ一時居留地外ハ立退佳居差
許候迄ニテ右等ヲ論柄トシ却テ其責ヲ東京府ニ
歸シ地租ヲ不被拂入ニ甚々本當ハ所為ニ有之、
東京府ニ於テ外國人ヲ居留地外ハ居住セシメ候義
有之トモ是ハ別論トシ地租ニ關係候道理無之就テ
ハ地券規定通り一昨年七月来ハ地租及七分ノ過
料トモ早々可被、
既得責意候、
明治七年一月十三日
寺島外務卿

白耳義并理公使シドロロト閣下
白耳義并理公使ヨリ外務省ニ回答
横濱在留我副領事
御訴訟熟考、上築地居留地第八番地、
御訴訟熟考、上築地居留地第八番地、
御訴訟熟考、上築地居留地第八番地、

嚴シク談判ニ及ヒ候処ハ、ルロニ氏右ノ義ニ付拙
者論ニ公意致シ價金先利足等ハ不差出候ヲ宜敷候
半ハ何時天地租相方差支無之由拙者ハ返答候扱ヲ
白耳義國法度上ニ於テハ此義拙者権柄ヲ以テ決シ
候様難叶候方一平穩ニ議論落手不相成候半ハ事柄
吟味ノ為ノ領事裁判所ヲ設立セサルヲ得サル場合
キ可立至候右様相成候テハ種々面倒ヲ生シ万事凝
滞可相成候付テハ閣下事情御吟味ノ上右價金利息
ノハ不差出義國相叶間敷或否御報知被下度右ニテ
適當ニ候ハ、ルロニ氏無延滞年々ノ地代相方
可仕候此段可得貴意如斯御坐候拜具謹白

一千八百七十四年第二月十七日

白耳義國弁理公使ドコツト

外務卿寺島宗則閣下

外務省ハ東京府ヨリ回答

七年七月五日
外務省照會書卷ス

當居留地ハ番地所有白耳義國人ニシテ口トス地
租淹滞ノ件全國公使ハ御掛合ノ処右地租ノ義ハ為
相掛可申間過料先ニ利金ニ着想相成度書申出タル
趣云々被申越候趣承知ナリ右ハ地券面明文ニ拠リ
テ過料利金トモ取立方掛合ニ及ヒタル義ニ候得共
公使未意ノ趣ニテハ未夕裁判上ニ涉ラサルニ付過
料利金等可取立権利無之事ト相聞且ツ右地租取立
方ニ付テハルロニ不當ノ義申立當府ニ於テ談
判難行届御省ヨリ公使ハ照會セラレタル義ニテハ
ルロニニ於テ公使ハ説諭ヲ甘シ地租相掛ハ上ハ
全ク内濟ノ姿ニテ地券面明文ニハ不差響他日異論

有之間敷義ト存候別ニ異存無之間早々地租收入ス
ハク尚御談判相成度此段答申ス

外務省ヨリ東京府ヘ往翰 七年四月十三日

當港開市場居留自耳義人エルストロース所有第八
番地々租淹滞ニ付過料并ニ税金トモ徴收ノ義ハ公
使ノ説諭ニヨリ本人ヨリ地租可払入段申立ル上ハ
内済ノ姿ニテ地券条例ニ不差響旨云々回答セラレ
タレモ右ハ決シテ地券面ニ不差響所謂無之儀令内
済ノ姿ニ取扱ニモセヨ他日之レト公種ノ事件出来
ノ節外國人ヨリ此適例ヲ以テ苦情申立ル片ハ拒ハ
ルニ論柄ナク遂ニ之ヲ聽サセラル得サルニ至ル
シ依テ地券規則ニヨリ尚ホ公使ヘ談判スハク存ス
レモ若シ後未右様ノ義出来ノ節并取スハキ辞柄有

之トノ御見込ニ候ハ、其趣委細報道有之度此段更

ラニ尋問ス

外務省ヘ東京府ヨリ回答 七年四月廿二日

自耳義人エルストロース地租淹滞ニ付過料税金取
立方ノ義ハ地券規則上ニ於テ有忍可致筋ニ無之ニ
付尚公使ヘ御談判可相成義者免相成尚後全様ノ件
出来候節并取スハキ辞柄ヲラハ見込可申進旨承知
セリ右ハ前ニ外務卿ヨリ神奈川縣ヲ引扱ニ未翰
ノ趣ト後ニ自耳義公使申立ノ趣本人公使ノ説諭ニ
服シ未タ裁判上ニ涉ラス内済ノ姿ニ付云々トノ旨
意ヲ酌量シ回報セシ義ナレモ内済ノ姿ニモ
セヨ過料税金トモ徴收シテ至當ナルハキトノ御着
認ノ上ハ當府於テ別段異存無之候間御見込通り御

談判相成候様致シ度畢竟該件ハ当府限り談判纏リ
カクテ御省ハ申立シ義ニ付何レニモ御見込ニ任ス
ヘク此段再答ス

外務省ヨリ東京府ハ往翰 七年八月十二日

白耳義國領事地租滞納ノ義ニ付去ル七月三十一日
御督促ノ旨領承右ハ全国公使ハ照會セシ処曾テ前
件全一ノ事アリト虫氏罰金等ハ未差出滞租金ノシ
差出候先例有之趣ニテ別紙ノ通リ申出タリ果シテ
右様ノ儀有之事ニ候哉御取調ノ上御回答有之度

別紙

白耳義公使ヨリ外務省ハ来翰 七年七月二十五

去ル五月十五日付貴翰落手致拜承候陳ハ右貴翰
ノ趣在横濱白耳義領事ハ掛合オヨヒ候処右領事

ノ返答ニテハ全氏全様他ノ予國人民モ罰法ヲ受
ル事ナク地租已ニ上納致シ候義申立候拙者モ深
ク探索ヲ遂テ候処右納方實施ノ事無相違段致

兼知候

右實際ノ誤故貴政府ノ満足ヲ可仰様拙者所望ニ
御坐候得共他ノ各國人民適隠シ居候罰法予國人
民ニ限リテ之レヲ処分スルハ拙者ニ於テ施行致
シ兼候然レトモ閣下強テ右地租一件ニ付予國人
民ヲ罰施センコトヲ欲セハ右ノ義ハ拙者擔當ス
ル処ニアラ子ハ予政府ノ特許受クヘント存候慎

敬

一千八百七十四年七月二十五日

白耳義國公使ニヤルコト

寺島外務卿閣下

外務省へ東京府ヨリ回答 七年八月廿三日

白耳義人正ルストロース地租滞納云々ニ付去ル十日
日照會ノ趣承了セリ白耳義人ノ義ハ正ルストロ
ースノ外東京ニテ地租借受シモノ無之隨テ地租請
求可致苦無之候得共察スルニ米仙人等ノ滞租ハ措
テ問ハヌ^{當時領事}照會中 独リ白耳義人ハ^ノ相迫^ル候様
思惟セレヨリ云々申出シタルハ^ハ尤滞租者ノ内荷
蘭人^ハナシクナル者ハ本年一月ニ至リ^ハ直
ニ納租スト^ト虽氏過料利金ノ義未夕不相納ニ付尚領
事ノ照會中^{ナリ}又仙爾^ノ要人ニ^モ同様^ノ者之^ハアリ
候得共過料利金^ハ至^リ一度^ハ領収^シタル^ハ頗^ク手數
ニ涉ル^ルニナラス^テ收入方區々不都合ニ付其後ハ迄

テ領事ノ手ヲ經相納ムハ夕及諭示置タル義ニ有之

候此段答申ス

外務省ヨリ東京府^ニ注翰 七年十一月廿八日

白耳義國領事ム^ルロニ氏地租淹滞ノ義ニ付テハ
地券面ノ成規ニ隨ヒ夫々処分可致苦先般御表示ノ
趣ニ有之則テ別紙甲号ノ通り全國公使ハ照會候処
過ル二十三^日付ヲ以テ別紙乙号ノ通り回答申越候
就テハ右滞租等收徴方ハ全國領事ム^ルロニ氏ハ
其府ヨリ直ニ御引合有之然ル^ハ夕存ス此段申入^ル
甲号 白耳義國公使ハ外務省ヨリ注翰 七年十月三
以書翰致格上候陳ハ貴國領事ム^ルロニ氏引受
ノ東京居留地内第八番地々租滞納ノ義ニ付先般
未屢々及御掛合候処去七月二十五日付貴翰ヲ以

テ是迄貴国人中地租滞納、者有之節地券面ノ定規ヲ踐行不致義モ有之懸續御申越ニ付其筋取調候処貴国人東京居留地内ニ於テ地所々持ノ者ハハルロニ氏一人ニシテ其他無之ニ付右等処分致シ候義無之尤和蘭國デヨニク氏地租滞納ニ付數回往復ノ末當一月中一ト先地租ハ相納ノ候ニ付尚引繼地券面ノ定規ヲ以テ利子過料等速ニ相納候様談判ニ涉リ居候趣畢竟夫等モ貴国人ハハルロニ氏ノ所為ヲ論柄ト致シ右等ノ所業ニ及ビ候義ニ立至リ候間全氏義速ニ地券面ノ定規ヲ踐行被致候得者他人ノ論柄ヲ裁撤可致義ニ有之候間如御未示滞租ノ取立其他地券面ニ掲クル一切ノ過料差許候儀ハ義諾難致今閣下ニ於テ此

回答ヲ被得候ハ、必ス至公ノ御處分可有之義ト致信用候右得貴意度如斯候敬具

明治七年十月三日 寺島外務卿

白耳義公使閣下

乙号白耳義國公使ヨリ外務省ニ回答 七年十一月廿三日

以テ紙致答上候然ハ當港我副領事ハルロニ氏ヨリ左ノ通り申越候

過日閣下ノ御諭示致シ候通り築地ハ舊地所地代一件ニ付テハ拙者方ニ於テハ何時ニテモ取扱差支無之候間日本政府ノ御報知相願度候トノ旨申越候尤右拙方ノ義ハ何様ナル振合ノモノニ御坐候哉拙者ニハ委細兼知不致候得共全氏ヨリノ書翰ニヨリ候ハ借人ノ宅ニテ相松候義ト存候

右ノ手都合ニ相違無之候ハ、増明候様御取計相
續候此段得貴意度加斯候

千八百七十四年第十一月二十三日

在横濱セドグロツト

寺島宗則閣下

外務省ヨリ東京府へ津翰 七年十二月二十三日

府下開市場居苗白耳義國領事ムルロシ氏地租延
滞ノ義、村公國公使、往復書相添去月二十八日付
第二百四十四号ヲ以テ云々申入置候処右ハ如何御
取計有之候哉滞租并過料共徴收相濟候ハ、其旨早
々御申越有之度此段及御掛合候也

外務省、東京府ヨリ回答 七年十二月廿八日
当居苗地所有白耳義國人工ルストロース滞租ノ分

取立方御省於テ全國公使、御往復ノ末全領事ムル
ルロシヨリ徴収ノ運ヒ御談判済ニ付其段去月廿八
日御示教有之候處右結末如何相成候哉可申進旨御
未示ノ趣致美知候然レ處右過料取立ノ義ハ、当今手
始ノノ義ニモ有之期限等ニ付疑按モ有之内務省ハ
相同置候義ニテ地租過料トモ一全ニ取立不申候ヲ
ハムルロシ義猶又紛義相生可申裁ト懸念モ致レ
候ニ付右指令相待居未夕取立不申義ニ有之候何レ
ニモ徴収ノ上ハ其段御届申上候様可致候此段御答
申上候也

外務省、東京府ヨリ上申 八年四月九日

白耳義國領事ムルロシ当居苗八番地料滞ノ分仕
松方ノ義曾テ御達ノ趣モ有之候ニ付利金取立期限

昔当府限リ決ニ兼候廉一應内務省伺ヲ経候上受取
トシテ横濱、出張為引合候処別紙第一号未書之通
リ品々辨柄相設ケ猶豫申立不得止義ニ付任其意候
処其後猶等閑居候間第二号ノ通リ申遣ニ候得共今
以仕拓方ハ勿諭回答モ無之此上全人へ面責ヲヨヒ
候ラモ全様ノ義ト存候間屢々御手数ニハ可有之候
得共今一應全国公使、御引合被下度因テ別紙書類
相添此段申上候也

白耳義国領事、東京府ヨリ泚翰 八年一月廿七
以書狀致啓上候陳ハ貴下御引請、東京居留地第八
番ノ地租淹滞ノ外務省ヨリ貴公使、御引
合ノ上右滞租先利金トモ御仕可相成趣ニテ今年
十月三日貴公使ヨリ外務省、御未報有之付テハ別

紙勘定書畧ノ通リ合計金五百二十四円七十銭八
厘相成候間若為受取未ル廿九日当府吏員差出候ニ
付其節御仕相成候様致シ度此段預ノ得御意置候
敬具

明治八年一月廿七日

東京府知事大久保一翁

白耳義国領事工ムールロニ貴下

ハールロニ地料取立ノ夕ノ出張、処今日全人東
京、行違ニ相成度ニ入り帰港待請受取方談判候
處右地料ハ兼テ公使、差出候積リ申立置候間一
應公使、申立ノ上ナラテハ不都合ニ付未ル火曜
日ニ相托ヒ度旨申聞候間談判ノ未本文、書面取
置

未ル火曜日 二月二日 東京居留地八番地料未沼氏、

御渡申様可致候也

千八百七十五年第一月廿九日

ムールロン

東京府知事大久保一翁貴下

地料為請取再應出張ノ節猶又異変及ヒ候ニ付督責ノ上取置書翰

別紙

一号白耳義領事ヨリ東京府へ来書 八年二月二

一翰拜呈致シ候然ハ過日地料松方ノ義ニ付赤沼氏ハ御約束申上候処築地第八番地区持主当今本国ニ罷在ヲトロリス氏ト拙者トノ間ニ混雜ノ義相生シ居就テハ近日仙国郵船入港致シ候得ハ右混雜ノ落着兼知可致候間其上地料相納候様致シ度候尤右ノ義ハ未ルニ二月九日迄ハ相分リ可申

候間即日拙者自身東京へ地料持参致シ貴下へ御渡シ方可致吳々モ過日赤沼氏御未臨ノ砌右差支ハ義可申上ハ必確ト失念何トモ恐縮至極此段御海怨可被下候先ハ右ノ段得貴意度如斯御坐候敬具

千八百七十五年二月二日

白耳義領事ムールロン

東京府知事大久保一翁貴下

八年二月九日

白耳義領事ヨリ東京府へ来書 一翰拜呈候陳ハ兼テ仙国郵便ニテストロリス氏ヨリ報知ノ次第ニ可有之答ニ候処当便ニ到着不致依之何共恐縮ニ候得共猶他日出京御面語致シ度存候尤此一週日ハ英國郵船入港可致候間左候得ハ必ストロリス氏ヨリ可申越ト存候右ニ付何卒右英

国御船致着迄テ兼テ御引合ノ義御猶豫被下度此段
御許容可被下候敬具

千八百七十五年二月九日

白耳義領事ハールン

東京府知事大久保一翁責下

別紙

ニ号白耳義國領事ハ東京府ヨリ注翰八年三月九日

以書狀致啓上候陳ハ東京居留地々料於御請求ニ

應ニ再三猶豫ヲ置候処最早一ヶ月程ニ相涉

リ不都合ニ付這回ハ無違滞曾テ差進置候勘定書

ノ通リ利金相添此度御差越有之度此上淹滞相成

候ハ不得止猶又外務省ハ可申立卜存候此段得

責急候敬具

明治八年三月九日

東京府知事大久保一翁

白耳義國領事ハールン貴下

外務省ハ東京府ヨリ回答九年二月二十五日
外務省照會書第...

白耳義國人エルトロ一々当居留地々料淹滞云々

ニ付廉昏ヲ以テ御問合ノ趣承了則別紙ニテ御承知

有之度尤本條地料未納者人名ノ義ハ其後納済相成

シ分ハ相除キ申候此段回答ス

別紙

各國領事ハ東京府ヨリ通知五年二月廿七日

以書狀致啓上候然ハ東京開市場ニ借家罷在候貴國

人昨廿六日ノ出火ニテ類焼致シ居所差支候者モ可

有之就テハ東京ニ一時留致シ度者ハ馬喰町旅籠

生ニテ外国人止宿為致不苦旨申渡置候間全処ハ御

越可申且家作貸借致度者ハ東京中何レノ地ニテモ

日敷三十日式ハ都合次第家作主ト示談相整候上運
上所ハ申立都合ノ事モ無之候ハ、兼リ届候積ニ付
其旨貴國人ハ、御通達有之度右ハ東京開市場規則
ニモ関係ノ義ニ付此段可得貴意如斯御坐候以上
明治五年二月二十七日
東京府権参事三島通庸

瑞西聯邦総領事

シーブレニワルト

葡萄牙國領事

エトワルトロレイロ

大猷列顛國領事

マーテンドーノン

北部聯邦代弁領事

エムマリテンベール

米利堅合衆國代辨副領事

アルフレットウイレンイル

仙蘭西國総領事

ラスガルコロ

各貴下

別紙

馬喰町旅籠屋共ハ申渡書

築地ニ罷在候各個人ノ住居類焼ニテ差支候モノ
多人數有之候間当分ノ内馬喰町旅籠屋ハ罷越シ
止宿致シ度旨申出候ハ、日敷三十日限りハ相對
示談ノ上止宿為致不苦候事
但国名共名前トモ承リ運上所ハ相届可申事

別紙

市中、申達

築地・羅在候各人、類焼ニテ住居差支候間、府内何レノ場所ニテモ相對示談ノ上、家作貸渡候義不苦尤日數三十日限リタルハキ事

但借家ノ義、外国人ヨリ類入貸渡差支無之候ハ、共者國名共名前共承リ運上所、羅在差番ヲ請ケ可申事

別紙

各國領事、東京府ヨリ通知 五年十一月十七日
以書狀致啓上候然ハ東京開市場居苗ノ外国人我商買等ノ家作相對借家可相成場所ノ内、南小田原町辺去ル二月二十六日ノ火災ニテ類焼致シ候跡道敷モ改革致シ家屋無之ニ付、此度右燒跡過半海

軍省ノ内、因以ニ相成候就テハ外国人相對借家ノ場所モ減少候ニ付、右代トシテ新富町并八町堀ノ方別紙番面飛朱ノ通リ相對借家差許可申候且右小田原町ノ方ハ追テ外国人居苗地ニ可致者兼テ規則面ニモ掲ケ有之候間、右代リニハ其期ニ及ヒ外国人居苗地ニ隣リ居候元高社取替其地所居苗地ニ可致候右ノ趣、貴国公使ハ外務卿ヨリ御商議相濟中候付テハ相對借家取廣候場所々々ハ貸渡方相達置候ニ付去ル二月中火災ニ罹リ一時府下テ散住致シ候御配下人民モ有之候得ハ未レ我十一月二十日ヨリ向三十日間ニ是迄ノ借家引松ヒ開市場、引移リ候様御下會有之度、此段可得御意如斯御坐候以上

明治五年十一月十七日

東京府知事大久保一翁

瑞西聯邦総領事

シーブレンワルト

葡萄牙国総領事

エトワルトロレイロ

大貌列顛国副領事兼

澳地利國代弁領事

マリテンドーメン

独逸国領事

エムマリランベール

下味国総領事

イデバヒール

仏蘭西国領事

ラスガルコロ

荷蘭国領事兼

瑞典那耳回国領事

アイボートウイン

白耳義国領事

イムールロン

伊太利国副領事

エフ、ブリエニ

西班牙国副領事

ラスカル、ローレン

米利堅合衆国領事

シーラーセバルト

魯西亞国領事

アラロウスキ

各貴下

別紙

米仙独人滞租人名 先貢納滞方年月

全千八百七十一年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月三十日コラ 五ヶ年分滞

米國人ジエムベツチヤルトル

右ハ当時全国領事へ本訴訟ノ年數ヲ以被告

致シ置申候

全千八百七十三年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月廿日コラ 三ヶ年分滞

全國人プリジエトアルヨンド

右前全断

全千八百七十二年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月廿日コラ 四ヶ年分滞

佛國人レリラントレウ井

右ハ領事限リノ談判難相届御省へ上申中

全千八百七十二年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月廿日コラ 四ヶ年分滞

全國人ワールカードブトセ

右前全断

全千八百七十二年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月三十日コラ 四ヶ年分滞

全國人ハアホールプラント

右前全断

全千八百七十二年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月三十日コラ 四ヶ年分滞

全國人アハール

右前全断

全千八百七十三年第七月一日ヨリ
全千七百七十六年第六月廿日コラ 三ヶ年分滞

仙國人クラト

右前全断

千八百七十一年第七月一日ヨリ
七十六年第六月廿日ヲ
五ヶ年分滞

独立工部局ニイフエル

右ハ明治四年中全國人ヘ一レシ所有ノ節全
人商業筋ニテ差違レ有之右ニ関涉致シ未納
相成居申候

附

本文商業筋差違レノ義ハ一レシ會社取建
空未相場立致シ候處右ニ関シ候御國人各ノ
相成夫カ為ノ終ニ會社免解致シ候趣ニテ若
情差起リ右損失贖ヲ受不申候内ハ地料不相
拂旨申出外務省於テ全國公使ト談判ノ末當
時裁判所ニ於テ審理中ニ有之候
一ケエニ一フエル義ハ一レシ跡引受人ニ
有之候

外務省ヨリ東京府ハ注翰 九年三月二十二日

白耳義國人エルストロース地租滞滞一件昨廿一日
ヲ以テ在仙國中野臨時代理公使ヘ申遣シ白耳義國
裁判所ヘ出訴ノ積取計候就テハ原告代理人仙國ヨ
リ白國ハ注復旅費其他談訴訟ニ關スル一切ノ費用
ハ一時公使館備金ヲ以テ繰替置追テ精算ノ上申送
候様全人ヘ申遣シタリ右費用ハ御府ヨリ弁償可相
成筋ニ有之候條其段豫ノ御義知置有之度將夕過料
ノ義ハ都テ滞租年月ヨリ本年二月コテノ計算ニ取
調置候此段為念申進ス

白耳義國領事エルストロース地料滞滞セシヲ以
テ屢々督促スト虫氏到底收納セサレハ更ニ該本
國政府ハ告訴スルニ付右ニ係ル計算書類取調外

務省へ廻送セシモノナリ

勘定書

一金百八拾四圓五拾錢

一千八百七十三年第七月
一日ヨリ全七十三年第七月
三十一日迄一ヶ月分
地料滞高

滞租過料

金百七拾六圓拾貳錢

一千八百七十三年第七月
一日ヨリ全七十四年六月三十日
十六年第四十八ヶ月
但一ヶ月三付金三圓六拾九錢

小以金三百六拾壹圓六拾貳錢

一金百八拾四圓五拾錢

一千八百七十三年第七月
一日ヨリ全七十四年第七月
六日ヨリ全七十四年分
地料滞高

滞租過料

金百三拾貳圓八拾四錢

一千八百七十三年第七月
一日ヨリ全七十四年第七月

十六年第六月三十日
ヨリ全七十六ヶ月
但一ヶ月二付前同

小以金三百拾七圓三拾四錢

一金百八拾四圓五拾錢

一千八百七十四年第七月
一日ヨリ全七十五年第七月
六日ヨリ全七十五年
分地料滞高

滞租過料

金八拾八圓五拾八錢

一千八百七十四年第七月
一日ヨリ全七十六年六月三十日
十六年第六月三十一日
但一ヶ月二付前全

小以金貳百七拾三圓六錢

一金百八拾四圓五拾錢

一千八百七十五年第七月
一日ヨリ全七十六年第七月

六月三十日迄一ヶ年分
地料滞高

滞租過料

金四拾四圓貳拾八錢

千八百七十五年第七月一日ヨリ今七十六年第六月三十日マテ十二ヶ月分但一ヶ月ニ付前全

小以金貳百貳拾八圓七拾八錢

合金千百八拾四八拾錢

本文過料金年分ノ計算相成居候得共若シ本月
附箋ニモ地料相納候ハ、当二月マテノ分取立余ハ
引去リ候義ニ有之候以下計算全所

白耳義國裁判所ノ訴告ニ付仙國駐劄御國臨時代
理公使中野健明ノ委託狀寺島外務卿ノ旨ニ從
ヒ全者ノ差出ス

委任狀ノ事

白耳義國人卫ルストロースノ對スル居留地八番ノ
地料淹滞ノ義ニ付白耳義國政府或ハ裁判所ノ及告
訴候付テハ拙者ノ代理人ヲ撰ニ右ニ關スル一切ノ
事務為取扱候儀ヲ貴下ノ致依頼候事

大日本

明治二十五年三月十六年
東京府知事大久保一翁

在仙蘭西國

大日本臨時代理公使

中野健明殿

指令 四月二十二日

開申ノ趣以後右様ノ儀之ヲル節ハ前以テ申出ヘキ義
ト心得ハシ

明治九年九月二日 二十番地ヲ英人ハシリール
ス、ダウイソシハスウアズテルサミールジークラ
レニ第二十八番地ヲ独人ダブリウトニツヘ第四十二
番地ヲ米人デーナムソングブリユインブリーヘ貸渡
シ競落金ヲ納メシム

東京府再申 九年八月十日

居留地競貸ノ義曾テ上申ノ通り施行シ二十番二十八
番四十二番地競落ニ付右競落金并全地拜借料トモ合
金貳千六百八拾貳圓四拾八錢收入ノ多大裁省出納察
ハ上納可任ト存候依テ別冊賬簿相添此段上申ス

別紙

競落金仕訳書

一金貳千五百五拾九圓九拾貳錢五厘

競落金

内
金六百拾五圓三拾五錢

是ハ居留地二十番三百九十七坪競落金英國

人ハシリールホールズダウイソンハフウアツ

ラルサミールジョーマリラーレン右四名ヨリ

取立候分租港坪ニ付金壹圓五拾五錢

金七百七拾五圓九拾三錢

是ハ居留地二十八番五百坪六合競落金独

國人ダブリウトニツヨリ取立候分租前全斷

金七百六拾八圓六拾四錢五厘

是ハ居留地四十二番四百九十五坪九合競落

金米國人デーナムソングブリユインブリー

右二名ヨリ取立候分

但前全断

一一金五百貳拾貳圓五拾六錢三厘

官地拜借料

内

金百四拾八圓八拾七錢五厘

是ハ居留地二十番三百九十七坪官地拜借料

明治九年八月一日ヨリ全十年七月三十一日

マラ西曆一千八百七十七年第七月三十一日ヨリ

一ツ年分英國人ヘンリーホーレスガウイソ

ハカウツナルサミールジョワラレ

金百八拾七圓七拾貳錢五厘

是ハ居留地二十八番五百坪六合官地拜借料

明治九年八月一日ヨリ全十年七月三十一日

マラ西曆一千八百七十六年八月一日ヨリ全

一ツ年分米國人デーラムソングアリエイン

ブイ一右二名ヨリ取立候分 但前同断

右ハ明治九年七月中外人居留地競落金共ニ拜借料共取立高書面之通候也

指令 九月二日

書面ノ趣聞届タリ競落金貳千五百五拾九圓九拾貳錢五厘官地拜借料金五百貳拾貳圓五拾六錢三厘合金貳千六百八拾貳圓四拾八錢大藏省出納寮ハ相納ムハシ

参照

東京府上申 九年七月二十四日

当居留地競貸ノ義曾テ上申ノ通り去ル廿日施行候

表別紙繪圖面朱秤三區ノ地所競落ニ付貸渡申候因
ラ別紙競落人々名競金高書共画番面共相添此段上
申ス

別紙

競落人名 共競金高書

第二十番地坪三百九拾七坪

競落金六百十五圓三拾五錢 但老坪ニ付
金老圓五拾五錢

英國人

ヘンリーホールズ

タウイソン

ハスウアツデル

サミールジーマクレーレン

第二十八番地坪五百坪六合

競落金七百七拾五圓九拾三錢 但前全斷

独乙國人

ダブリユドニツ

第四十二番地坪四百九拾五坪九合

競落金七百六拾八圓六拾四錢五厘 但前全斷

米國人

デーラムソン

ダブリユイングリ

○明治九年十二月十三日 築地明石町居苗米人バキヤ

ルドル借地料淹滞ノ訴訟裁判ヤシニ吾政府官私傭役

ノ外国人ヲ居苗地外ハ居住ヤシタルハ居苗地規則

ニ背馳レタルヲ以テ訴訟ノ主趣立タズト不審ノ判決

セシニ依リ尚談領事へ再訴ス

東京府上申 九年十二月十三日

去三月五日上申セシ米國人バチメルトルニ係ル借地料淹滞ノ訴訟今般裁判相成候処吾政府ニ於テ官私傭役ノ外国人ヲ居留地外へ住居セシメタルハ居留地規則ニ背馳シタルノ主意ヲ以テ右訴訟ノ主意不相立段不当ノ判決相成候ニ付外務省へ篤ト遂稟議横濱居留地二十八番英國人エフビーデツキンスへ代理申付猶米國領事へ再訴ノ積ヲ以テ其般談領事へ申入候処不日猶裁判相聞クベク旨ニ有之候此段不取敢上申ス

○明治十年九月十四日 築地外國人居留地ノ地稅額ヲ
改正シ一ヶ年志坪金三拾七錢五厘ヲ金貳拾八錢ニ減サセシム

外務省ヨリ内務大藏両省へ照會 九年十月三十一日

東京開市場外國人居留地々租減額ノ儀ニ付本月十一日及御協議置候処右一件ニ付尚別紙ノ通り各國公使連署ノ書翰差出候間右十一日付掛合書ニ對シタル御回答至急御差越有之度

別紙 各國公使ヨリ外務省へ未翰 九年十月四日

下名貴政府駐劄各國公使一公謹テ閣下へ申進候然ル處築地居留地及外國人借地人共ヨリ申立候地租減額要求ノ儀ハ貴政府ニ於テ御採用相成可然筋ト相考候就テハ是迄ノ地租未納ノ外國借地人共ヨリ皆納致サセ別ニ罰金課セス且又当年分共ニ其以後ノ處ハ一千八百七十年五月ノ取極書ニ掲載有之一

坪ニ付一步貳朱租額ヲ一坪ニ付十九セントノ地租
ヲ相納ル事ニ致シ候ハ、公平至当ノ処置ニ可有之
存候此段可得貴意如斯ニ候敬具

於東京一千八百七十六年十月四日

大不列顛國特命全權公使

サー、ハルリー、エス、バークス

米利堅合衆國特命全權公使

ジョン、エ、ビンガム

魯西亞國特命全權公使

スツルウエ

伊太利國特命全權公使

コント、アレサントロフエ

仙蘭西國臨時代理公使

トサン、カンタン

白耳義國辦理公使

シ、ド、グロート

和蘭國辦理公使

フオン、ウエツクヘルソン

独ニ國辦理公使

フオン、アイ、ゼンテツヘル

現今我國借地人共ヨリ申出タル右地
租未納ノ処分御許容有之積ニテ茲ニ
記名ス

西班牙國代理公使

マルアノ、アルワレス

日本皇帝陛下ノ

外務卿寺島宗則閣下

内務大藏両省ヨリ外務省へ回答 十年五月三日

東京開市場外国人居留地々代ノ義ニ付二月五日付更ニ御照會ノ趣致熟考候処御未示ノ通り現場ノ勢亦無余義ニ付横濱居留地ノ比較ニヨリテ一ヶ年百坪ニ拾七巾九十セント余ヲ以テ減額ノ目的ト相定メ可然存候間此上規約等ノ堅御談判相成度此段御回答及ブ

外務省ヨリ内務大藏両省へ通知 十年七月三十一日

東京開市場地代減サ方ノ義先般御協議ノ末太政官へ上申セシ処七月二十五日伺ノ趣開届候旨御指令有之候尤右ノ趣貴両省へハ当省ヨリ可及御通知旨御達ニ付此段及御通暢

外務省ヨリ通知 十年九月十二日
内務大藏両省宛

兼テ各回公使ヨリ申立候東京開市場地代減サ方ノ義

別紙ノ通り公使等へ回答書差遣置候処此段為御心得申進ス

別紙

英米仏和独自ノ公使へ外務省ヨリ回答 十年八月廿九日

貴曆一千八百七十六年十月四日付前臨時代理公使サンカントン氏ヨリノ貴翰ニ致回答候然ハ東京築地外国人居留地々代減額ノ義各國御全僚連署ニテ御要求ノ趣ニ候處一体東京開市場候ニ付テハ外国人居留ノ為ノ全所ヲ以テ新夕ニ居留地ト定メ我人民在未ノ家屋等ヲ買上取払、上之レテ地均ヒラ新ニ道路溝渠ヲ設テ外国人居住ヲ得ルノ場所ト為ス迄ノ費用夥敷相掛リ候処今以具費用ヲ償却スル代ニ

至ラサル内兼テ取極置タル借地料ヲ御要求ノ通り
減サスル事ハ難相成候儀シ閣下方ヨリ全断ノ商賣
意外ニ衰微シ居住ノ商賣借地料松方難渋ナル由御
申立有之且實地ノ調査ニ依リ候テモ現今居留人少
ク明地多キ趣ニ付当分借地料ヲ百坪ニ付一ヶ年金
貳拾八圓ノ額ニ當明治十年一月ヨリ減少可致候尤
右ハ明文ニ申達候通り土地不繁昌ニ付減少候義故
追テ其形况ニ從ヒ右借地料ヲ増加致シ候義モ可有
之此儀預シノ申進置候且又是迄数年ノ借地料不相
納外國人モ有之右ヲ取立ルニハ多少手數相掛リ候
ニ付是迄ノ滞リタル借地料一時ニ悉皆相松候上ハ
是迄不收ノ系ハ御請求ニ應シ特別ノ訳ヲ以テ罰金
ハ宥恕シ可達候旨全府知事ハ申達置候右ノ通り相

成候ハ、閣下方ニモ御満足ノ義ト致信用候敬具

明治十年八月廿九日

外務卿寺島宗則

英 米 仏 和蘭

独乙 自軍義 各公使宛

伊西露ノ公使ハ外務省ヨリ回答 十年九月三日

千八百七十六年十月四日付貴翰ヲ以テ閣下ノ御先
職コレトフエ氏ヨリ東京築地外國人居留地々代減
額ノ儀各國御全條連署ニテ御要求ノ趣ニ候處一体
東京開市候ニ付テハ外國人居留ノ為ノ同断ヲ以テ
新ニ居留地ト定メ我人民在来ノ家屋等ヲ買上取松
ノ上地均シテ道路溝渠ヲ設ケ外國人居住ヲ得ルノ
場所トナス迄ノ費用夥シク相懸リ候處今以其費用
ヲ償却スルトキニ至ラサル内兼テ取極ノ置タル借

地料ノ御要求ノ通り減少スルハ難相成候儀ノ責
下等ヨリ全所ノ商買意外ニ衰微シ方今居住ノ外国
人借地料松方難渋ナル由御申立有之且ツ實地ノ調
査ニ依リ候ヌモ現今居留人少ナリ明地多キ趣ニ付
當分借地料ヲ百坪ニ付一ヶ年金貳拾八圓ノ額ニ當
明治十年一月ヨリ減少可致候尤右ハ前条ニ申述候
通り土地不繁昌ニ付減少候義故追テ其形況ニ隨ヒ
右借地料ノ増加致シ候義モ可有之此義豫ノ申進置
候此段回答可得意候敬具

明治十年九月三日 外務卿寺島宗則

伊太利 西班牙 露西亞 各公使宛

外務省ノ回答 十年九月十四日 内務

東京開市場地代減少方ノ義各國公使ニ回答相成候
趣領義東京府ニ其旨相達シタリ此段御答ニ及ツ

東京府ニ達 十年九月十四日

東京開市場外人居留地ノ料減額滯滞ノ地料ニ對
スル罰金宥恕ノ義其筋伺定ノ上別紙ノ通各國公使
ニ確答相成候旨外務省ヨリ通知ニ付右ニ準拠可取
扱此旨相達ス

○明治十年三月一日 獨國人ヘ一レニ所借ノ金

十二萬圓地ヲ返還ス

○明治十年五月廿三日 外国人居留地ノ経界建石修繕
費ハ府廳定額常費居留地諸費ノ内ヨリ支払ハシム

東京府上申 十年三月七日

客年八月十一日附ヲ以テ築地外国人居留地境畧建石
修繕費別途御渡ノ義相伺候處本年二月二日附定廳常
費廳中費ノ内ヲ以テ可仕松旨御指令有之処既、明治
七年五月三十一日該地經畧建石先ニ藥研下水等修繕
ノ義ニ悉ク別途御下渡ニ相成候實例之アルノ事ナラ
ズ該費ノ義ハ全ク居留地土功費ニ属シ廳中費トハ自
ラ種實相異ナリ候間今一應特別ノ御詮議ヲ以テ別途
御渡ニ相成度此段更ニ相伺フ

指令 五月二十三日

書面再伺、趣明治七年ノ定額改正以前ノ義ニシテ例
規ニハ難相成尤モ最前指令ノ趣モテレハ右費途ノ義
ハ其定額常費居留地諸費ヨリ仕松ヲ義ト心得ハシ

○明治十年七月三日 築地居留地三十一番三十二番ノ
地所道路幅員更正ナルヲ以テ該地居住ノ独一人ハ一
レニニ其償ヲ与ヘ返地セシム

局議

築地外国人居留地三十一三十二番地ノ義ニ付テハ別
紙参照書ノ通り外務卿意見ノ次第モ有之且該地ニ
沿ヒタル道路幅員狹隘ナルカ故ニ若シ火災アリ居
留地ニ延焼スレアルカ如キハ不都合ニ付此際独乙
國人ハ一レシ氏借地三十一三十二番地ヲ相当ノ償
ヲ与ヘ返付為致然ルヘケレハ東京府、左ノ達ニア
ルハシ

別紙参照書

東京府へ達 十年七月三日

其府下築地居留地三十一番地ニ沿ヒタル道路幅員更正ノ義ニ付差向キ独乙國人ヘ一レン借地三十一番三十二番地入用有之候間相当ノ償ヲ与ヘ返地為致候積リ夫々取調中出ヘシ

但本文取調方ノ義ハ外務省ハ申出ヘシ

東京府上申 十年七月十三日

築地居留地三十一番ニ沿ヒタル道路幅員更正ノ為ノ入用ニ付独乙國人ヘ一レン借地三十一番共三十二番地トモ相当ノ償ヲ与ヘ返地セレハハ夕尤調査ノ義ハ外務省ハ可申出旨去ル三日御達ノ趣領来其段今省ハ稟議候處今省ヨリ独乙国公使ニ談判ノ上金六千三拾四圓三拾三錢七厘貳毛償金ヲ以テ返戻方義諾ノ趣外務省ヨリ申越候就テハ右金額仕松ノ義ハ全所地料徴

收ノ分ヲ以テ直ニ相托ヒ可申哉

指令 八月七日

書面ハ趣聞届金六千三拾四圓三拾三錢七厘額外常費増費地價下戻トシテ証書ヲ以テ下渡候条右証書ヲ以テ地租滞滞金ノ廉ハ上納取計ラヘシ

東京府上申 十年八月十三日

居留地三拾壹番ニ沿ヒタル道路幅員更正相成候ニ付テハ独乙國人ヘ一レン借地ニ相当ノ償ヲ附與シ三十一番共三十二番地共返地致サスヘク御達ニ付経伺ノ上償金下付該地返還セシノ候處右地所ハ從前ノ通り居留地ハ組込当府直管トシ追テ居留地競貸ノ節地區全一ニ処分可致哉

指令 八月二十五日

同ノ通り取計フヘシ尤競貸方ハ居留一般ノ振合ニ準
シ其都度伺出スヘシ

○明治十年九月二十一日 築地居留地十七番地居住英
人ブロツクワリ地租淹滞セシヲ以テ該領事ハ告訴ノ
上滞租金三百三拾九円九拾九錢九厘ヲ府廳ハ領收ス

東京府上申 十年九月廿一日

府下外國人居留地十七番地所有者英國人ブロツクワリ
義官私傭外國人居留地外住居ノ義ヲ口実ト致シ地
料納方相拒候ニ付横濱税関雇英國人ラウダラ代人ト
シ英國領事ハ告訴セシ処去ル一月十三日審判ニ未
告申分難相立滞租金三百三拾九円九拾九錢九厘
領事廳ハ取立相成昨廿一日当府ハ領受セリ右落着ノ

段上申ス

○明治十年十月四日 築地居留米人バチヤルルハ係
ル地料淹滞ノ告訴ハ茲ニ地料ヲ完納セシヲ以テ其訴
訟ヲ解ク

東京府上申 十年十月四日

○明治十年十月四日 築地居留米人バチヤルルハ係
ル地料淹滞訴訟復審ノ義英國人デツキンズハ
代言申付訴訟中ノ處今般被告ヨリ淹滞地料并現今ノ
分共相納ムハクニ付解訴兵候様申出候ニ付右情願聞
届去ル明治四年五月西曆一千八百七十七年滞租ノ金額
共本年分共合金貳千七百六拾八円拾三錢六厘徴收解
訴致シ候依之本件落着ノ段上申ス

○明治十年十一月 瑞国人シロヘルシーブレンワル
ト所借ノ五十一番地五十二番地ヲ英国人ジョン・ハイ
バルハ譲渡ス

○明治十年十一月廿八日 仙国人ハアホールブランド
所借ノ十九番地四百二十二坪ヲ甲乙二号ニ部分シ甲
四百拾坪。三合ヲ米国人ゼリエル・アメルマンハ譲與
ス

○明治十年十二月 瑞国人グロムシトグレンワル
ト所借ノ五番地ヲ英国人ジョン・カクラン・ダウイソン、
マクドナルド・ダジョー・エム、ミーン・シヤム・チヤレス、エ

ス、イビーノ四名ハ譲與ス

○明治十一年一月 米国人ゼリエム・バチヤルトル所借
ノ二十一番地ヲ全国人ジョシフ・ホツグ・トンブレーハ
譲與ス

○明治十一年一月 米国人ゼリエム・バチヤルトル所借
ノ一番地ニ番地二十二番地ヲ全国人ジョシフ・ホツグ
ハンブレーハ譲與ス

○明治十一年二月 米国人ジリヤスリバル所借ノ十
番地ヲ全国人ドラスクウン・モーカルハ譲與ス

○明治十一年二月八日 仙国人 フールカード プリーセ 所借ノ
九番地ヲ米国人 エドワルド ハウス へ譲與ス

○明治十一年六月四日 居留地四十八番及ヒ四十九番
地ノ内所有和蘭人 デヨング氏 地料淹滞ニ付米国人ラ
ウグ氏ヲ代言人トシ和蘭國領事廳へ出訴スレテ許ル
ス

東京府上申 十一年五月廿三日

府下外国人居留地四拾八番及ヒ四拾九番地ノ内所有
和蘭人 デヨング氏 義去ル明治九年一月ヨリ本年ニ係ル
地料三ヶ月分淹滞ニ付本人ハ勿論全國領事、掛合ニ
及フト至底平和ノ談判難相届其旨外務省へ申立
全省ヨリ和蘭國事務取扱英國公使へ照會相成ル処公

然当府原告ト為リ領事廳へ出訴候外取計方無之趣ニ
付横濱税関雇英國人 ラウグ氏 へ最前ノ手續ニテ代言
相糺シ候答ニ諛関長ト打合済ニ有之本件甘結ニ至リ
顛末具状可致候得共代言人へ委託ノ上ハ幾許ノ入賞
ニ相掛リ候間御聞置相成度
指令 十一年六月三十日

書面ノ趣聞置候事

○明治十一年七月一日 蘭国人 デヨング氏 所借ノ四十八
番地乙四拾九番地ヲ英國人 ウギルレムホルライトへ
譲渡

○明治十一年七月八日 和蘭人 デヨング氏 係レ借地料

淹滞金四百六拾四圓六拾九錢六厘全國領事廳へ出訴
ノ上收入ス

東京府上申

居留地四十八番及ヒ四十九番地ノ内所有和蘭人テヨ
ニク義一昨年中ヨリノ地料納方相拒ミ領事ノ督促ヲ
用ヒス因ラ横濱税関産英國人ラウダハ代言申付和蘭
領事、及告訴候処審理ノ末被告申分難相立滞金四百
六拾四圓六拾九錢六厘同廳へ取立ノ上去ル四日当府
へ受取本訴落着致シ候此旨上申ス

○明治十一年九月十四日 仙國人レクランドレウキ
外三名地料延滞ニ付英國人ラウダヲ代言人トシ全國
領事廳へ出訴スルヲ許可ス

東京府上申

居留地三番地所有仙國人レクランドレウキ一全九番
地全國人プーセル全フルカート及ヒ四十六番地前所
有人全アハースルノ四名去ル明治二年中ヨリノ地料
淹滞ニ付本人ハ勿論領事へ掛合ノ末一昨九年六月
中出訴ニ及ヒ候処昨十年一月ヨリ居留地々料減額ニ
付テハ被告人共ニ於テ一時相納ノ候ハ裁判ヲ要セ
ズ解訴可致段説諭方領事へ掛合候得共調議ニ至ラス
無據最前ノ見込ニ遡リ即今審判要請ノ運ヒニ付右代
言ノ義横濱税関産英國人ラウダ氏ハ是迄再應相托シ
事情熟知罷在仍テ全人ハ相托シ候苦諛関長ハ打合落
ニ有之本件甘結ノ上ハ顛末可及具狀候得共代言委托
ニ付テハ裁許ノ入費相掛リ候義ニ付御聞置相成度

○明治十二年十一月十六日 英米國人ハ係ル地料淹滞

訴訟入賞ハ府廳定額常賞ヲ以テ支弁セシム

東京府上申 十一年一月十六日

米國人バケヤルトル及ヒ英國人プロックリー地料淹滞ニ付英國人ラウタ先ニテツキンスハ代言委託英米領事ハ出訴ニ係ル諸入賞別紙任訳書ノ通り金貳百五十拾壹圓八拾六錢壹厘一時振替ヲ以テ支弁シ置候ニ付別途御渡ニ相成度此段上申ス

任訳書

一金貳百五十拾壹圓八拾六錢壹厘

此洋銀貳百四十拾六弗八拾セント

此訳

金四拾九圓貳拾六錢七厘

此洋銀五十弗

租銀五十九分一分貳厘替

是ハ居留地ニ付料淹滞ニ付米國人バケヤルトル

ハ係ル訴訟ニ付証拠金トシテ明治元年三月中

全國領事廳ハ差入候分

金八拾七圓貳拾七錢七厘

此洋銀八拾六弗八拾セント

但一弗ニ付銀六十分三分二厘替

是ハ前全額ニ付洋銀三拾六弗八十セントハ裁

判入賞償却ニ付最前差入レタル証拠金五十弗

ハ外不足ノ分領事ハ差出レ残り五拾弗ハ裁判

不足ニ付復審請求ノ節証拠トシテ明治十年一

月領事廳ハ差入候分

金五拾壹圓九拾壹錢七厘

此洋銀五拾巾

但 一巾ニ付 銀六十三匁三分替

是ハ前全斷ニ付英國人ヲツキンス代言中諸入
賞トシテ明治十年十二月全人ハ相渡シ候分

金六拾三匁四拾錢

此洋銀六拾巾

但 一巾ニ付 銀六十三匁四分替

是ハ前全斷英國人ブロツクリーハ係ル訴訟ニ
付英國人ラウカ代言中諸入賞トシテ明治十年

九月全人ハ相渡候分

右ノ通有之候也

地理局長ヨリ東京府ハ推問 十一年二月八日

英米國人ハ係ル訴訟入賞下金ノ義客月十六日御伺出
ノ処米人バケヤルドルハ係ル分復審請求ニ付証拠金
五拾巾領事廳ハ差入ノ分ハ復審取調中被告ヨリ解訴

願出該件落着ニ及ヒ候ニ付テハ解訴ノ際右証拠金ノ
義何トカ御談判有之候上ノ事トハ存候如何ノ都合ニ
候我且代言諸入賞トアルハ何々ノ費目ニ候我併セテ
御回答有之度

東京府ヨリ地理局ハ回答 十一年二月十六日

英米人ハ係ル訴訟中入賞御下金ノ義上申候處米人バ
ツケヤルドルハ係ル復審ニ付領事廳ハ差入候証拠金
五拾巾解訴ノ際如何ノ都合ニ相成シヤ且ツ代言諸入
賞ノ目共御尋問ノ趣了兼証拠金ハ示談ニテ解訴スト
置氏復審ノ為ノ法廳ヲ開キ審理候義ニシテ人民相互
ノ訴訟ト異リ右等ノ場合ハ還付不相成法廳ニ歸シ
候振合ノ由且ツ代言中費目ハ別紙ノ通りニ有之此段
御回答ニ及フ

府廳ヨリバケヤルトルハ係ル訴訟ニ付往復其外諸
入費勘定書可差出様御未談ノ趣有之ニ付即取調候
處往復五回一回ノ入費流車人力車及ヒ賄料共五帀
宛ニ付合貳拾五帀其外書類謄寫料貳拾五帀相掛リ
申候右詳細原書ヲ以テ取調候筈ニ候得共巨額ニモ
無之概計差上申候

千八百七十九年第十月一日

エフデツキンス

森 信義 貴下

勘定書

金貳拾五帀

五回横濱往復旅費

金貳拾五帀

書類謄寫料

右ノ通正。落子候也

エフデツキンス

貴下ヨリブロクレー氏ハ係ル詞訟昨日落着相成裁
判全ク貴下御企望ニ相適シ候既大慶ニ存候裁断書
相廻リ次第郵送可仕候訴訟ニ從事致シ候ハ小生ノ
職務ニ候得共右ニ付費用致シ候左ノ金額ハ御下付
被下度候

千八百七十七年八月三十日 エスラウダ

東京知事楠本正隆 貴下

記

一洋銀四拾帀

論文活版刷立代價

一洋銀貳拾帀

東京横濱往復費用

合洋銀六拾帀

地理局ヨリ再東京府ハ推問 十一年四月十二日

米人バケヤルトルハ係ル訴訟復審ニ付領事廳ハ差入

候証拠金ノ義ハ既ニ一端復審ノ法廳ヲ開キ審理有之
 人民相互ノ訴訟ト異リ返付無之法廳ニ歸シ候振合ノ
 由ノ処初審裁判入賞ハ証拠金五拾弗ノ外不足分三拾
 六弗八十セントヲ要償シテ之ヲ精算シ復審辨許ノ場
 合ニ至ラハ人民相互ノ訴訟ト異ル趣ヲ以テ証拠金其
 終領事廳ハ收入シテ精算無之事理判然了解致シ兼候
 間御取調ノ上領事廳ハ御掛合全廳回答振詳細御示シ
 相成度

東京府ヨリ地理局ハ回答 十一年九月十八日
 米國人バチヤルトル滞租詞訟ニ付全領事廳ハ及并
 償候洋銀百三拾六弗八十セント精算ノ義ニ付御掛合
 ノ趣了義右ハ代言申付候米國人デツキンスハ何レモ
 委托候義故全人ヨリ為取調則内訳書差進候此旨御美

知被下度

東京府ヨリバチヤルトルハ係ル詞訟ニ付米國統領
 事廳ハ抽出候入賞明細書左ノ通り

一洋銀百三十六弗八十セント

此抽出

一洋銀五拾弗

千八百七十六年第三月
 六日米國法廳ハ松渡ノ分

内訳

三拾弗

聴訟費

貳拾弗

書記費

一洋銀三十六弗八十セント

千八百七十七年第一
 一月十日陪審費ト
 シテ米國法廳ハ松
 渡ノ分

一全 五拾弗

今年全月全日
 全庭ハ松渡ノ分

内訳

貳拾五串

復審聴訟費

拾五串

書記費

拾串

監督費

總計洋銀百三十六串八十仙土

右ノ通ニ候間御一覽被下度候也

千八百七十八年第九月七日

エスウイ、テツキンス
エイチ、ジイ、ヘランズ

東京府知事楠本正隆貴下

指令 十一年十一月十六日

申出ノ費用ハ其府十年度定額常費ヲ以テ可仕ル

○明治十一年十二月二十六日 仏国人ハアホトルガラ
ント所借ノ乙十九番地ヲ英国人ハシリールス

カウイソンセーウアツテルサシール、シーマクラーレン
ンノ四名ハ讓渡ス

○明治十二年二月 英国人ブリジットプロツクリー所
借ノ甲十七番地ヲ米国人ゼト、エル、アメルマンウイリ

マムインブリリ及ヒ米国人エス、シーマクラーレンノ
三名ハ讓渡ス

○明治十二年十一月 米国人ジョンハルトリ所借ノ
甲四拾九番地ヲ全国人エイ、チハウスハ讓渡ス

○明治十二年十二月 米国人ジードブリユリアンホー
ンボルフ所借ノ十八番地ヲ英国人ヘンリーフオー

ル五スシーマクライレンニハ譲渡ス

○明治十三年二月一日二十六番地三十七番地三十八番地ヲ米国人シトエム、ウイリヤムハ十二番地ヲ米国人

人ゼーエム、バチヤルドルハ十三番地ヲ米国人オリイ
ガホワイテンクハ貸渡ス

東京府上申

外国人居留地第十二号ヨリ十六号ヨテ二十六七号三十七八号ノ拾区ノ地英米人中ニ於テ競落候間規則ニ從ヒ貸渡シ申候此段上申ス

○明治十三年二月一日拾四番地ヲ米国人エイケハウ
スハ十五番地ヲ全国人エム、ジトハリスハ十六番地ヲ

全国人ウイリヤム、インブリリハ二十七番地ヲ英国人
ゼーケ、スコットハ三十番地ヲ米国人エイケ、エイチ
リスハ貸渡

○明治十三年二月一日米国人セーエム、バチヤルトル
所借ノ十二番地五百拾四坪ニ合テ甲乙二号ニ部分シ
甲二百。八坪ヲ独国人ケラジマルケシハ三百。六
坪ニ合テ清国人陳瑞章ハ譲渡ス

○明治十三年四月独国人ダブリユートンツ所借ノ二
十八番地ヲ米国人エーデクリングハ譲渡

○明治十三年八月米国人ドラクウシノール所借ノ

拾番地ヲ同國人工ム、工ム、工ム、スベニサリ相續ス

明治十三年十二月十五日 獨國人ハアノレンス所借
ノ四十一番地ヲ全國人工ム、工ム、工ム、ベニヤ社へ譲渡ス